



栗東市

地域資源活用ビジョン



平成27年10月

栗東市

目 次

I 地域資源活用ビジョン策定の趣旨 1

- 1 地域資源活用ビジョン策定の背景・意義 1
- 2 地域資源活用ビジョンの位置づけ 1
- 3 地域資源活用ビジョンの計画期間 2

II 本市における地域資源の現状と課題 3

- 1 本市における地域資源の現状 3
- 2 地域資源活用における課題分析 14

III 地域資源活用の目指すべき姿 16

- 1 地域資源活用ビジョンの目指すべき姿 16
- 2 基本方針 17

IV 地域資源活用の基本的な取り組み 19

- 1 地域資源の発見 19
- 2 地域資源の活用に向けた意識の醸成 19
- 3 地域資源を活かした産業の振興 20
- 4 地域資源を通じた連携 20

V 重点プロジェクト 21

- 1 重点プロジェクト 21

VI 活用ビジョンの推進体制 24

- 1 推進体制 24
- 2 点検・評価 24

参 考 資 料

- 1 栗東市シティセールス戦略・地域資源活用ビジョンの策定経過
- 2 栗東市シティセールス戦略策定委員会 委員名簿
- 3 栗東市シティセールス戦略策定委員会設置要綱
- 4 地域資源 地域別一覧
- 5 地域資源 テーマ別一覧

I 地域資源活用ビジョン策定の趣旨

1 地域資源活用ビジョンの策定の背景・意義

本市には、固有の自然、歴史・文化、観光、物産など、数多くの地域資源を有しています。

「地域資源」とは特定の地域に存在する特徴的で活用可能なものの総称であり、広く一般に認知され、その資源的価値を見出し、活用することにより、地域活性化に結びつけることが可能なものを指すものとされています。

本市においては、これまでも様々な地域資源を活用した取り組みを行ってきましたが、今後更にまちの発展を持続的なものにしていくためには、本市が既に有している地域資源をはじめ、潜在する地域資源を新たに発掘するなど、魅力ある様々な市内の地域資源を効果的に活用し、それをまちの強みとして捉え発信することにより、市民の地域への誇りと愛着の醸成を育み、まちの地域活力の創出に結びつけていく必要があります。

平成 26(2014)年度の第五次総合計画後期基本計画策定時に実施した市民意識調査における「地域資源を活用した観光を振興するまちづくりが推進されているか」との項目では、「そう思う」「ややそう思う」と回答した市民の比率が全体の 22%と評価が低く、取り組みとしての優先度が高いことから積極的な取り組みが求められています。

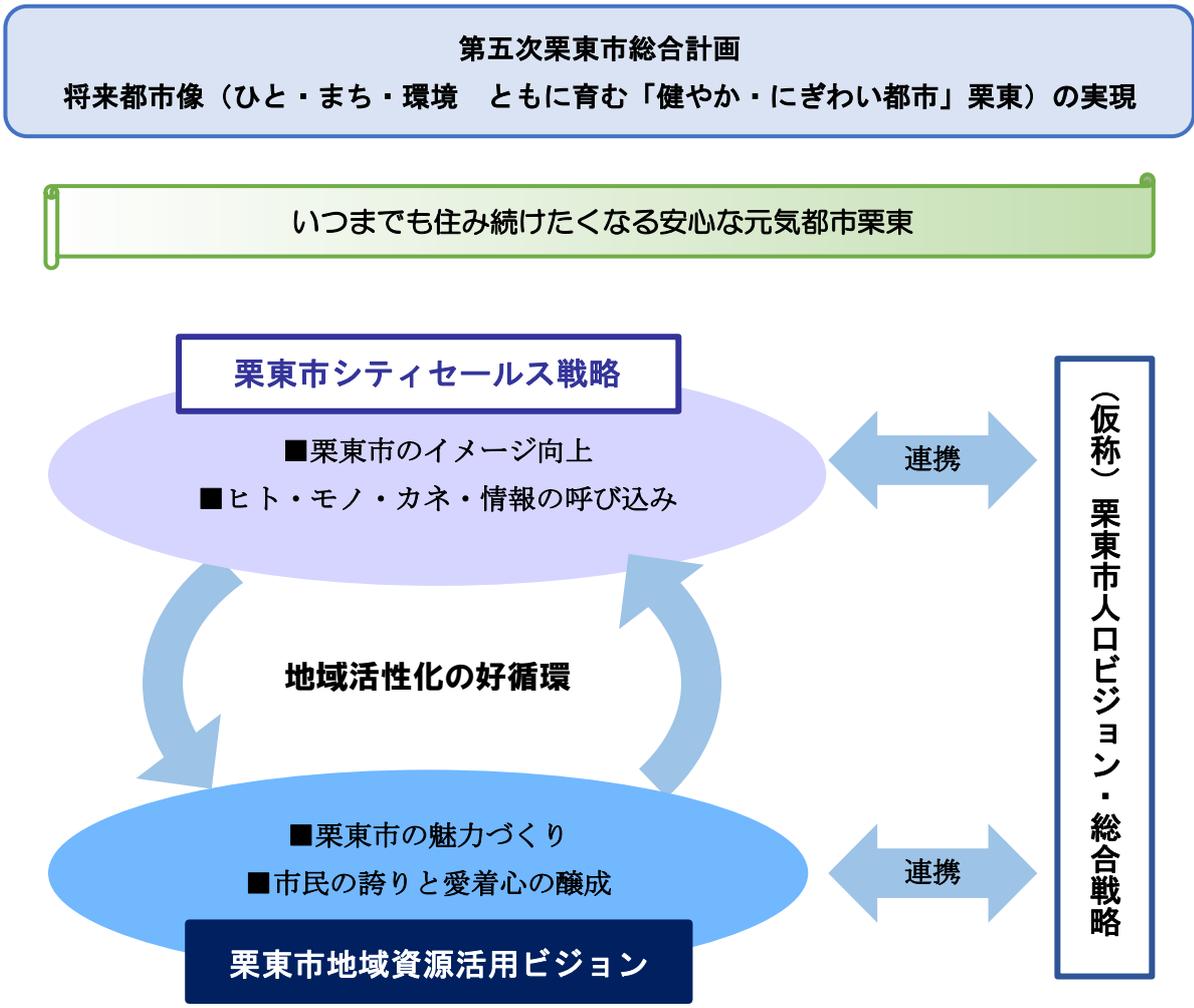
このことから、観光面をはじめ、自然、歴史・文化、農産物や人的資源など、数ある本市の魅力となる地域資源を今一度再確認し、磨き、育て、活用することにより、市民の地域への誇りと愛着心の醸成、まちの地域活力の創出を図るため、本市の地域資源の活用に向けた基本的な考え方や方向性を示す「栗東市地域資源活用ビジョン」を策定します。

2 地域資源活用ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、平成 26(2014)年度に見直しを行った第五次総合計画後期基本計画、(政策の実現に向けて)「5. 地域資源を活用した行政運営」、「(1) 地域資源活用ビジョンの推進」、また第七次栗東市行政改革大綱におけるプラス創造型改革の項目として「2. 地域資源とわがまち意識を育む行政運営」、「栗東愛を育む創造的な行政運営」、同大綱の推進計画においては、「地域資源活用ビジョンの策定・実践」、「市民のわがまち意識(シビック・プライド)の醸成」、「都市ブランド戦略の推進」等を具現化していくため、本市の魅力＝地域資源を十分に活かした本市の独自性のあるまちづくりを行うことを目的に策定したものです。

また本市シティセールス戦略においても地域資源の魅力を発信し、これらの取り組みを効果的に進めます。

◆栗東市地域資源活用ビジョンと関係計画との関係図



3 地域資源活用ビジョンの計画期間

前項の位置づけを踏まえ、本ビジョンの計画期間については、第五次総合計画後期基本計画、第七次行政改革大綱との計画期間に合わせ、平成 27(2015)年度から平成 31(2019)年度の 5 年間とします。また、上記計画に位置づけた地域資源に関する取り組みの内、優先的に進める必要がある取り組みについて「重点プロジェクト」として位置づけ、計画期間の 5 年間で一定の成果を挙げることを目指し、集中的に取り組みを進めます。

H27	H28	H29	H30	H31	
第5次栗東市総合計画 後期基本計画					➔
（仮称）栗東市人口ビジョン・総合戦略					➔
地域資源活用ビジョン					➔

Ⅱ 本市における地域資源の現状と課題

1 本市における地域資源の現状

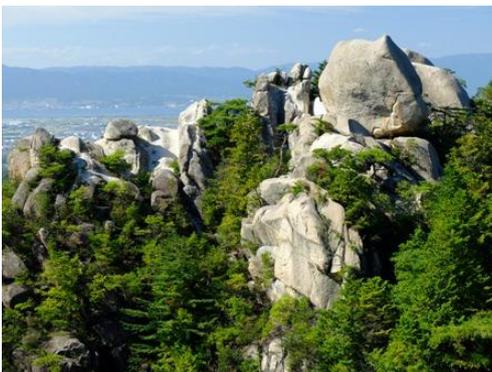
本市には多くの地域資源が点在しています。地域資源活用ビジョン策定資源調査【参考資料】においては、平成16年(2004年)3月に栗東市商工会において取りまとめられた地域資源調査事業報告書をベースとして、「Ⅰ. 自然」、「Ⅱ. 歴史(社寺・史跡)」、「Ⅲ. 芸能・文学(祭り)」、「Ⅳ. 食べ物・特産品」、「Ⅴ. 生活文化」、「Ⅵ. 遊び」、「Ⅶ. 取り組み」の分野で集約された地域資源の再整理を行いました。

【各分野における主な地域資源(抜粋)】

(※地域資源一覧資料は巻末の資料編を参照下さい。)

〈Ⅰ. 自然〉

○金勝山ハイキングコース(金勝地区)



緑豊かなまちの南部にそびえる金勝山(阿星山・竜王山・鶏冠山)などをはじめとした湖南アルプス。その中でも竜王山には平安時代の仏教文化の一躍を担っていた金勝寺や平安時代に作られたといわれる狛坂磨崖仏などがあり、これらの史跡を辿るハイキングコースが整備されている。ハイキングコースには耳岩や天狗岩など自然に出来た珍しい岩がありこの場所からの眺望は壮大である。

○九品(くぼん)の滝(金勝地区)



井上集落から観音寺へ通じる道を少し逸れたところにある。上滝、中滝、下滝の三つに分かれ、総高約20m。渓谷は全長100mを越し、湖南地域最大の規模を誇っている。さわやかな溪流の水音がさながら仏教でいう九品浄土の音楽に似るところから名づけられている大自然の素晴らしい景観である。

○栗東自然観察の森（治田地区）



安養寺山の一角に昭和 63 年(1988 年)開園。市の中心部に残されたこの丘陵地は、コナラ・アカマツ林に代表される植物、昆虫、野鳥などが四季折々の風景を見せてくれる。ネイチャーセンターを中心に探索路が整備され、昆虫や野鳥、植物などの生態をわかりやすく観察できる。自然観察会も数多く行われている。

◆その他の注目すべき資源

区分	資源名
I. 自然	・ 観音寺の景観・風景（棚田と琵琶湖を望む眺望）
	・ ナンダ坂狛坂、狛坂石段
	・ 千本桜
	・ 観音寺の景観

<II. 歴史（社寺・史跡）>

○金勝寺（こんしょうじ）（金勝地区）



奈良の都の鬼門を鎮護するため、奈良時代、聖武天皇の勅願により僧良弁が開祖したといわれ、平安時代の初め弘仁年間(810年～824年)に願安によって伽藍が整備されたと伝えられる湖南仏教文化の中心をなした天台宗の寺で本尊釈迦如来、虚空蔵菩薩など、数多くの重要文化財がある。静寂に包まれた山道に浮かび上がる山門と本堂の風景が心に残る。

○旧和中散本舗大角家住宅（葉山地区）



「和中散本舗ぜさい」として江戸時代、全国的に知られた薬の老舗で東海道の間の本陣（六地藏梅ノ木立場）としての役目を果たし、重要文化財としての店舗や座敷、製薬場など、近世初頭の商業建築としてはわが国唯一の遺構である。幕末には有名なドイツ人医師シーボルトも訪れている。

平成 22(2010)年度には市景観まちづくりの取組みの中で、ぜさいや看板のレプリカを市民参画による 1000 人彫りにより復刻、同年開催された第 3 回堂々りっとう景観記念日にてお披露目された。平成 26(2014)年度からは素晴らしい建物の良さを多くの人に知ってもらおうと、NPO 団体の協力による月 1 回の定期開場の取り組みが行われている。

○大宝神社（大宝地区）



大宝年間（701年～704年）の創建といわれ、中世より旧栗太郡50余郷の広い範囲の集落の氏子により支えられてきた総社として堂々たる風格を持つ。広い参道の左手には立派な四脚門があり、本殿内にある狛犬と境内社追来神社本殿はいずれも重要文化財。当社は桜の名所でもあり、春には多くの花見客で賑わう。

○東方山安養寺（治田地区）



天平年間に聖武天皇の勅願により建立されたと伝えられ、江戸時代には皇室の崇敬も篤かった。本尊薬師三尊をはじめ石造十三層塔など、重要文化財が多く残っている。

また庭園は県指定の名勝になっており江戸時代のもので、美しいさつきと琵琶湖を模った池に、近江八景を配した構成の静かな佇まいである。真言宗泉涌寺派。

◆その他の注目すべき資源

区分	資源名
Ⅱ. 歴史（社寺・史跡）	・金勝山宗教文化資源 ・金勝山
	・大野神社
	・東海道 ・東海道沿いの文化資源
	・中山道
	・菌神社（中沢）
	・狛坂磨崖仏

<Ⅲ. 芸能・文学（祭）>

○花笠踊り（小杖まつり）（治田地区）



小槻大社の祭礼で毎年5月5日に行われる。近隣6集落（岡、目川、坊袋、川辺、下戸山の一部（宮ヶ尻）、草津市山寺町）による輪番制で神事の一切を執り行い、神社へのお渡りの道中や神社境内で花笠踊りと呼ばれる風流な太鼓踊りが行われ、「小杖祭りの祭礼芸能」として県の無形民俗文化財に指定されている。

○三輪神社の鱒鮓（どじょうずし）（葉山地区）



毎年5月に行われる大祭では、特殊な神饌として「どじょうずし」が奉納される。この鮓は鯰（なまず）と鱒（どじょう）を飯に漬け込み、6か月以上熟れさせた鮓で、「鮓（ふな）寿司」と作り方は似ているが更に原始的な形態を留めている。大祭には「どじょうずし」のほか、大根・蕪・豆腐・豆・芋・タツク・ふかが御供の膳として奉納される。本来の祭礼は5月10日に行われていたが、現在は5月3日。

○大宝神社相撲祭（大宝地区）



10月18日に近い日曜日に開催されている。北中小路と二町（ふたまち）の住民による水利権の争いを、大宝神社の神主が仲裁し、両村の子どもに相撲を取らせ、円満に仲直りさせたという、故事に由来する祭り。

○観音寺のオコナイ（金勝地区）



勧請縄づくり、神事と直会、勧請吊り。観音寺集落の入口に、そこが村境であることを明示し、外界からの悪疫や災厄の侵入を未然に防止するため、注連縄（大蛇の形をした大縄）を、かけ渡し祈る。

オコナイの食膳に出されるくるび等の独特の精進料理は、昔の観音寺の僧坊での僧の食事からきたもの。

○栗の木の話（伝承）（共通）



昔、栗太郡に栗の大樹が一本生えていた。木の高さは雲を突き、木の周りは五百人が手をつなぐ大きさだった。あまりの大きさのため、木陰では日が当たらず、作物が実らなかったため、人々の訴えで帝は、武将の掃守宿禰を遣わして、この木を切ることにした。8分ばかり切ったところで、夜になり、明るく朝来てみると、栗の木はもとのままになっていた。こんなことが何日も続いた。それは、蔓の精が栗の木の傷口を、夜中に舐めて、治していたのである。宿禰は、さっそく蔓草を刈り払って、とうとう栗の木を切り倒すことに成功した。切られた栗の木は7日7夜焼かれ、その灰が灰塚山になったという。

○手はらみ伝承（葉山地区）

昔、手原の人が3年ばかり家を留守にして、遠い国に旅立つことになった。この男は、美しい新妻のことが心配で仲の良い友達に預けて護ってもらうことにした。一方、預かった友人の男は、夜は用心のため、毎晩女の腹に手を置いて守っていたところ、この新妻は10月10日に、人の手を生んだ。このことが噂となって、手原の字名になったとのこと。

◆その他の注目すべき資源

区分	資源名
Ⅲ. 芸能・文学	・森田まさのり
	・左義長
	・さきら
	・馬

<Ⅳ. 食べ物・特産品>

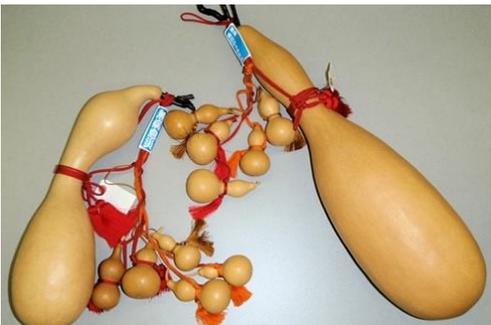
○目川の田楽（治田地区）



岡村の人が豆腐の田楽や菜飯を売る茶店を構えたことにはじまり、その茶店が目川村との境にあったため、「目川田楽」とよばれ、田楽といえば目川というほど東海道名物として広く知られたが、幕末にはすでに廃れてしまった。田楽茶屋としては、京伊勢屋、こじま屋、元伊勢屋があった。

ほっこり庵は田楽茶屋を模してオープン。目川田楽と菜飯は代々伝わる当時のレシピを基に味付けを現代風にアレンジ。ロコミで広がり全国から目川田楽を食べに訪れるファンもいる。めがわ田楽保存会により運営されている。

○目川瓢箪（治田地区）



草津宿に接する立場として栄えた目川で生産される目川瓢箪は、往来する旅人の必需品とされた。現在は、縁起物として珍重されている。

○栗東いちじく（金勝地区）



滋賀県のエコファーマーのこだわり、ビニールハウスの中で丁寧に防虫、防菌をし、良質の木を優しく育て、美味しい「いちじく」が作られている。現在滋賀県下でも有数のいちじくの産地である栗東で、その生産を担う生産組合員は滋賀県エコファーマー認証を取得している。

果実の販売は8月から10月頃まで。糖度が高くしっとり甘い栗東いちじくを活用して、道の駅こんぜの里りっとうなどで「いちじくジャム」や「いちじくソフト」などの人気の商品として販売されている。

○琵琶湖ワイン（金勝地区）



湖南アルプスの麓になだらかに広がるブドウ園は、地形がヨーロッパの自然に似て、品種も欧州系高級種の葡萄が豊かに実るところとなっている。中腹にはシャトーを構えて、全ての工程を丹念に行い、風味豊かなワイン、ブランデーを産出している。ワイナリーではシーズン中（8月～9月）においては要予約にて工場見学、試飲等が人気を呼んでいる。

◆その他の注目すべき資源

区分	資源名
IV. 食べ物・特産品	・蹄鉄サブレ
	・栗東バーム(大野バーム)
	・栗東米 ・金勝清流米
	・栗
	・栗東あられ
	・へそくりパイ
	・へそくりまんじゅう

<V. 生活文化>

○しんぴょうしの霊水（治田地区）



川辺字新日吉にあり、金勝川に沿っている関係で、その伏流水が涸れることなく湧き出している。水面が浅いことから非常に汲みやすい。昔、東海道を往来する旅人や、町民などが疲れを癒すために、憩いの場として、この冷水は多くの人に重宝がられた。子どもたちも「やかん」をぶらさげて戦後しばらくは、飲料水としてこの水を汲みに行っていた。

○旧中島家住宅（葉山地区）



旧中島家住宅はもと霊仙寺集落の東端にあった。主屋は敷地西寄りの中央に東面して建ち、周囲に小屋、便所、離れ等が建っていた。昭和60年（1985年）に解体し、平成5（1993）年度に栗東歴史民俗博物館の敷地に復元することとなった。建築年代は明治初期と推定される。この地域の典型的な民家形式であり、家の中にある土間式の庭が床上げされるまでの農家の生活の様子をうかがい知ることができる。

○辻村の鋳物師（葉山地区）

辻村では野洲川の砂を利用して鋳物（釣鐘、鍋、釜）が盛んにつくられ、「辻村の鍋釜」として全国的に名声を博した。辻村の鋳物師は、ただ本拠地で鋳物を吹き販売しただけでなく、全国各地（江戸深川外24か所）へ店を出して発展していった。辻の天満宮の現在の鳥居は鋳物製である。

◆その他の注目すべき資源

区分	資源名
V. 生活文化	・栗東インターチェンジ
	・道
	・自治会活動、ふれあいサロン ・まちおこし

<VI. 遊び>

○滋賀日産リーフの森（県民の森）（金勝地区）



昭和50年（1975年）5月に、昭和天皇・香淳皇后両陛下をお迎えして、開催された第26回全国植樹祭会場跡地。天皇陛下は「ヒノキ」、皇后陛下は「モミジ」を植樹され、みどり豊かな公園、琵琶湖を一望できる景観の地として親しまれている。現在の県民の森の名称は滋賀県と企業との契約によりネーミングライツ第1号として平成26（2014）年度から5年間「滋賀日産リーフの森（県民の森）」として認定されたものである。

○道の駅 こんぜの里りっとう（金勝地区）



金勝寺や狛坂磨崖仏などがある緑と歴史の里の拠点となるのが、「道の駅こんぜの里りっとう」。全国植樹祭跡地にある滋賀日産リーフの森（県民の森）に隣接しており、広場で遊ぶ人や金勝山をハイキングされる方などの憩いの場を提供している。道の駅の売店では、金勝の地元でその日に取れた新鮮な野菜や果物をお買い得な価格で販売している。

○道の駅 アグリの郷栗東（葉山地区）



道の駅アグリの郷栗東では、朝採りの季節野菜や果物を販売。地元でとれた素材を使った料理はレストランにて味わうことができる。また地元で生産された安心、安全な農産物を使って、4つの工房（豆腐工房、もち工房、パン工房、ジェラート工房）が健康、環境、おいしさにこだわって特産品を生み出している。また、「まるっぼ豆腐」、「割木の巻寿司」は名物となっており、近年ではテレビ局などからの取材も多くなっている。

○こんぜの里・バンガロー村（金勝地区）



まちなかを離れ、普段と異なる自然空間の体験ができるこんぜの里バンガロー村。ヨーロッパ風のお洒落なログハウス9棟は、すべてキッチン、バス、トイレ、冷暖房完備のコンドミニウム式。キャンプワールドも含めて大自然を思い切り満喫できる。

○栗東第一児童公園（通称：しろ公園）（治田地区）



栗東第一児童公園は、通称「しろ公園」とよばれ、昭和48(1973)年度より施行された安養寺土地区画整理区域内に位置している。公園内には円墳状の白い築山の複合遊具が設置されており、その特色ある風体から地域住民より親しみをもって「しろ公園」と呼ばれている。公園設置から40年以上が経過しており、昭和40年代に住居を構え遊び親しんだ親世代から、その子ども、孫世代まで世代を超え親しまれる造形物としての地域資源と言える。

○SL公園（葉山地区）



SL公園は、手原稻荷神社に併設された公園で、東海道草津線の電化に伴い廃車となった蒸気機関車を展示する公園である。展示する蒸気機関車は、昭和49年(1974年)2月に当時の天王寺鉄道管理局より無償貸与されたD51403号機で、静態保存されている。かつて日本各地で活躍した武骨で迫力のある蒸気機関車は、世代を超えた人気があり、いまでも幼稚園児等の見学や、往年のマニアの来訪など訪れる人々を魅了してやまない存在である。SLの保存には、地元の手原SL同好会が手入れをされており、毎年10月14日の鉄道の日には、イベントの開催もあるなど、魅力的な地域資源である。

○馬に親しむ日（栗東トレーニング・センター乗馬苑）（金勝地区）



JRA 栗東トレーニング・センター乗馬苑にて毎年開催されている馬にふれあい、馬の楽しさを知ってもらうために開かれるイベント。馬車や馬にも乗ることができ、多くの親子などの参加者で賑わう。

◆その他の注目すべき資源

区分	資源名
VI. 遊び	・野洲川運動公園
	・森遊館 ・森の未来館
	・栗東（川辺）運動公園、野洲川テニスコート、平谷球場

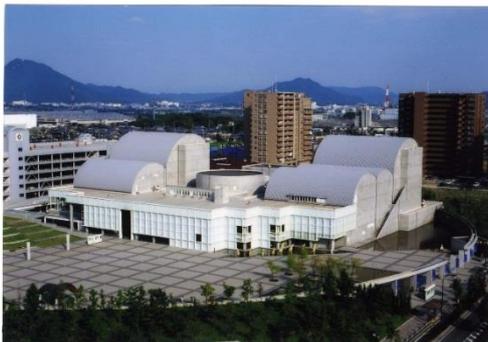
<VII. 取り組み（拠点・施設）>

○栗東トレーニング・センター（金勝地区）



昭和44年(1969年)に完成し、150万㎡の広大な敷地には、常時2,000頭の競走馬がひかえている。調教馬場や馬の診療所、プールなどがある。トレセン見学ツアー（要予約）では調教スタンド、坂路コース等の各施設の見学や、案内車両により厩舎地区が見学できる。また、調教見学ツアー（応募）ではG1レース出走馬の調教見学ができ、イベント「馬と親しむ日」が毎年開催されている。

○栗東芸術文化会館さくら（大宝地区）



平成 11 年（1999 年）開館。「まちづくり・ひとづくりの拠点」、「芸術文化情報の受発信の拠点」、「交流の拠点」を基本理念に市民に身近なホールづくりを進めている。

参加型事業として、住民参加の子どもミュージカルの制作やワークショップ、関連企画、テーマを持った四季のフェスティバル事業などを行っている。また、ユニークな自主事業を行うなど、県内だけでなく県外からの集客も多い。

○マスコットキャラクターくりちゃん（共通）



平成 25 年（2013 年）に新たに栗東市のマスコットキャラクターとなった「くりちゃん」。栗東市のイメージアップのため活躍するさまは、まさに栗東市独自の地域資源であるといえる。

○身長：150 センチメートル

○体重：栗 2000 個分（約 60 キログラム）

○性別：男の子

○生年月日：1991 年 12 月 25 日（クリスマス）

○りっとう市民夏まつり野洲川花火大会（葉山地区）



野洲川河川敷を会場に、栗東市・野洲市の連携開催により夏の夜空を約 1,000 発～2,000 発の花火が彩る。またステージイベントなど多くの来場者で賑わう。

○東海道（東海道ほっこりまつり）（治田地区）



東海道は、江戸時代以前より人馬と情報の往来幹線として整備された歴史文化に富んだ街道であり、その中で目川、岡地域は、宿場をつなぐ休憩所「目川立場」として栄えていた。現代においても、寺院、民家、垣、塀、石碑など、往時の街道筋の雰囲気等が随所に残っている。地域においては、住民で構成された「東海道ほっこりまつり実行委員会」が中心となり、平成 19(2007)年度から、東海道の一部区間を 1 日車両通行止めにして開催される「東海道ほっこりまつり」など、景観まちづくり活動を展開されている。

○かたつむ邸（治田地区）



「かたつむ邸」は、平成 25 年(2013 年)4 月より、龍谷大学の学生が東海道沿線で借用している民家の名称で、地域内での活動拠点、及び地域住民との交流の場として活用しており、定期的に一般開放している。また、「かたつむ邸」は「語りから未来を紡ぐ」ところからきており、そこを拠点に文化や歴史、景観など様々な内容を地域住民と語り合うことで、学生は見識を深め、地域住民は自分たちのまちへの愛着の醸成と、住民同士のコミュニティ強化を図られている。

○Harves-Ta in HASHIRI（ハーベスタ・イン・走井）（金勝地区）



Harves-Ta in HASHIRI（走井地域の収穫祭）のイベントを中心に、清流の里、走井の良さを広く地域内外の人たちに PR し、地域の魅力を発信。また、農業・農村の多面的機能の発揮を図るために、若者が農林業にチャレンジする集落づくりを促進させ、さらに害獣から農地を保全し、土地改良施設の保全や環境整備など集落外からの力の活用などによる共同活動を実施している。

◆その他の注目すべき資源

区分	資源名
VII. 取組み	・耐寒アベック登山大会
	・安養寺景観まちづくり（庁舎前ガーデン）
	・こんぜの里周辺施設
	・金勝めぐりちゃんバス
	・大人の社会見学

2 地域資源活用における課題分析

本市地域資源の中には市内外にこれまであまり知られていないものも多く、その要因としては、それぞれの地域資源としての情報発信が十分でなかったことや、日常の生活に溶け込み過ぎて地域資源として意識されてこなかったこと、資源として活用するといった視点が欠けていたことなどが捉えられます。

【課題1：地域資源に誇りと愛着を育む意識づくり】

市民の行動範囲や交流範囲が広がったことなどにより、地域のつながりを大切にする意識や地域に目を向ける機会が少なくなっています。

地域資源について、誰もが自分の住む地域に目を向け、地域への誇りと愛着を持ってもらうための機会を多く持つことが重要です。

【課題2：情報発信手段・内容等についての検討】

情報発信としては広報紙やパンフレット等の配布、ホームページ等のインターネットの活用、テレビやラジオ等のマスメディアの活用など多様な手段を用いていますが、十分に行きわたっていない面もみられます。

市民の誰もが地域資源について再認識できるきっかけとするとともに、市外の人々に対しては資源を広く知ってもらうため、資源それぞれに相応しい手段や内容で情報を発信することが必要です。

【課題3：ストーリー性の明確化】

地域資源の活用活動や情報発信による効果が現れない原因の一つとして、地域資源の活用におけるストーリーが明確でないことが考えられます。

地域資源活用を進める上での方向性でもあるストーリーを明らかにするとともに、活動に携わる人々が共有することが必要です。

【課題4：資金や組織等の活動基盤】

これまでも、市内の様々な地域資源を活用したイベントの開催等が実施されていますが、活動を支える資金や人材の不足により活動の継続が難しくなることがあります。

地域資源の掘り起こしから、その魅力を磨き上げなど継続的な活用には資金や組織等の活動を支える基盤が必要です。

【課題5：市民・企業・行政等との連携】

地域資源の活用状況をみると単体での資源活用の取り組みが多く、市民と行政、事業者とが良い形で連携できていないために、資源活用の形態が広がらないケースが多くなっています。

地域資源の活用には、掘り起こし・企画運営・販売・PRなど、携わる人材が必要であり、市民と多様な組織が連携することが有効です。

【課題6：市の内外を結ぶ交通インフラの整備】

情報発信などにより多くの方が栗東市の資源に関心を持ってもらうことができて、道路や公共交通機関などの不便性が来訪者の増加を妨げます。

多くの来訪者を誘客するには、道路や公共交通ネットワークの整備も必要です。

【課題7：事業の進行管理】

社会経済状況の変化やコスト意識の高まりから、事業の効果が早期に現れるようにすることが求められています。

地域資源活用を円滑に進めることができるよう、事業の実施状況や成果の達成状況について進行管理を行うとともに、これを評価し、その結果を今後の取り組みに反映していくことが重要です。

Ⅲ 地域資源活用の目指すべき姿

1 地域資源活用ビジョンの目指すべき姿

本市の目指す都市の姿を実現するため、様々な地域資源を積極的に活かし、栗東ならではの個性ある魅力づくりを進めていきます。

このため、市民と企業、行政など多様な主体による協働・参画のもと、それぞれの役割を意識しながら地域資源の活用に取り組みます。

また、このことにより市民のまちへの愛着や誇りに思う気持ちの醸成を図り、まちの魅力と個性を大切に思う市民が「住み続けたい」という「想い」を強くすることで、地域資源活用の継続的な活動につながることを期待できます。

このような市民の想いと地域資源の活用によって、栗東市の「ひと・まち・環境」の魅力・活力が向上し、世代を超えて資源活用とコミュニケーションが図られている姿を目指すべき姿（ひと・まち・環境 ともに育む「健やか・にぎわい都市」栗東）として実現を目指します。

ひと・まち・環境

ともに育む「健やか・にぎわい都市」栗東

いつまでも住み続けたいくなる安心な元気都市栗東

2 基本方針

目指すべき姿を実現するために、次の4つの基本方針に基づき、様々な分野における施策を進めていきます。

(1) 地域資源の発見（知る）

今私たちが生活するこのまちの中にあるものを積極的に探し見つけ出し、資源としての価値を再発見することで、これまで気付かなかったまちの魅力がさらに豊かに広がっていきます。

私たちのまちで生活する人たちによる地域への誇りと愛着を根底にしながら、まちに根付き培ってきた地域資源とあわせ、これまで意識されてこなかった地域資源に気付くことにより、価値ある地域資源として活用していきます。

(2) 地域資源の活用に向けた意識の醸成（磨く、守る）

地域資源活用の無限の可能性についての意識の醸成には、地域のことを一番よく知り、地域に誇りと愛着を持ち、住み続けたいという意識を持つ市民の力が必要です。

地域資源としての活用や新たな組み合わせによる工夫などに対する想いや知識をこのまちで生活するみんなが共有するとともに、地域資源活用に取り組む意識づくりを継続し進めていきます。

(3) 地域資源を活かした産業の振興（活かす）

地域資源を活用した地域活性化のためには、産地の技術、地域の農林産物、観光資源など、それらを活かした産業を形成・発展させていくことが重要です。

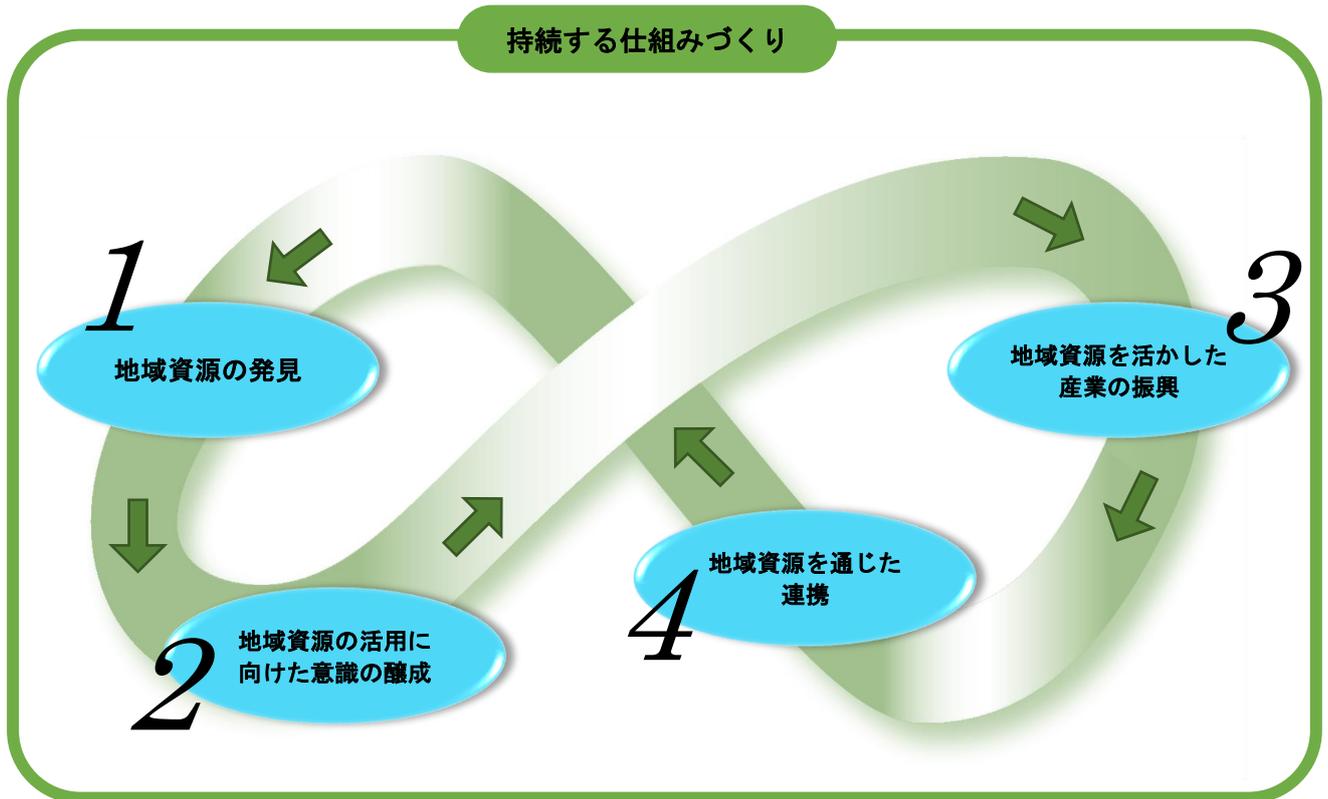
地域資源の高付加価値化をもたらす技術開発や地域ブランドの確立を目指し、現存する地域資源をはじめとして地域資源の新たな組み合わせによる商品開発など、栗東ブランドの創出を図るとともに、観光分野や農林分野などにわたる多様な地域産業の振興を図ります。

(4) 地域資源を通じた連携（つなぐ、つながる）

地域資源に関する活動や知識、技術は、市民・企業・団体・行政などの連携・協働が確保されることによって、よりその価値が高まります。

市内外を問わず、市民・事業者等が多様な主体と連携することによって生み出される様々な視点や手法で、地域資源の活用に取り組めるよう支援します。

【地域資源活用に向けた基本方針の概念図】



IV 地域資源活用の基本的な取り組み

1 地域資源の発見

(1) 地域資源の再発見と共有

「地域資源」という言葉から具体的に想像するものは一人ひとり異なるため、「地域資源」そのものに対する考え方や地域での活用状況、目的などについて共有できる取組みを進めます。また、地域にあるものを探し出して整理し、テーマ性やストーリー性の視点を重視した上で、まちの魅力として共有していきます。

<基本的な取り組み>

○地域資源に関する話し合いの場の開催

○地域資源の掘り起こし

○地域資源に関する考え方の普及・啓発

2 地域資源の活用に向けた意識の醸成

(1) 地域資源を活かす意識づくり

市民一人ひとりが地域資源活用に関わる機会を多く持ち、その活動が広がるよう応援していきます。それがシティセールスや地域資源を活用していく市民活動につながっていくこととなり、それらの活動を効果的に活かす取組みを進め、多様な視点から資源を捉えるようにし、更なる活用へと展開させます。

<基本的な取り組み>

○地域資源に関する積極的な広報と情報発信

○地域資源の多様な活用方法について確認・検討できる場の確保

○専門家など外部の視点から検討できる場の確保

3 地域資源を活かした産業の振興

(1) 産業への活用

栗東市における農林産物や地場産業の技術などの多彩な地域資源は、他の地域にはない特徴や魅力があります。市民がその価値を再認識するとともに、新たなデザインや用途等を組み合わせるにより、生活者の感性に働きかけ、感動が得られるような商品・サービスの提供を促進します。

また、来訪者の増加を図るために、栗東でしか感じられない魅力的な体験や感動できるメニューを絶えず創り出すとともに、受け入れ環境の整備や観光情報の効果的な発信を進めます。

<基本的な取り組み>

○地域資源を活かした新たな地域産業の創出

○魅力ある観光地づくりと人材育成

○受け入れ環境の整備

○地域の魅力発信のための戦略的な展開

4 地域資源を通じた連携

(1) 様々な主体の参加と連携への支援

市民、行政、事業者等、様々な主体が、それぞれの役割を認識しながら資源活用に主体的に取り組むことができるように支援します。また、活用のための相談や必要な情報の提供、連携できる機関への紹介など市のコーディネート機能の向上を図ります。

<基本的な取り組み>

○地域資源活用に関連する経済的・人的支援制度の設立

○地域資源活用人材・情報バンクの設立

V 重点プロジェクト

1 重点プロジェクト

本ビジョンでは目指すべき姿を実現するため、「IV 地域資源活用の基本的な取り組み」に基づいた取り組みを進めます。

本ビジョンにおける取り組みの実効性を高めるため、第五次栗東市総合計画後期基本計画や第七次栗東市行政改革大綱に位置づけられた地域資源に関する取り組みとして、重点プロジェクトと位置づけ、「IV 地域資源活用の基本的な取り組み」の段階を捉える中で、本ビジョンの計画期間である概ね5年内での目標を事業毎に定め、集中的に取り組むを進めます。

●重点プロジェクト1 栗東ブランドの創造

【基本方針 - (1) 地域資源の発見・IV地域資源活用の基本的な取り組み-1-(1)】

☆目標：継続した「あるもの探し」による栗東ブランドの創造

■これまで地域に既に存在しながら埋もれ、気づかれていない魅力的な資源、自慢したい資源、栗東をイメージできる資源など、新たな地域資源の「あるもの探し」に向けた取り組みをテーマ性やストーリー性を踏まえながら継続的に行うことにより、その地域資源をまちの魅力として、ここに暮らす市民皆が共有し、愛着を持ち続けることができる「栗東ブランド」の創造に向けた取り組みを重点的に進めていきます。

《想定される取り組み事例》

- 栗東にある地域資源の「あるもの探し」
- 地域資源共有データの充実整備
- 栗東ブランドイメージの創造（プロデュース）

●重点プロジェクト2 「馬のまち・栗東」創出に向けた「馬事業」の展開

【基本方針 - (3) 地域資源を活かした産業の振興・IV地域資源活用の基本的な取り組み-3-(1)】

☆目標1：馬とのふれあい機会の確保・充実

☆目標2：馬のまちを実感できる「馬のまち・栗東」の創出

■全国に2箇所しかないJRA日本中央競馬会のトレーニング・センターが所在することからJRA栗東トレーニング・センターと連携した事業の充実のほか、民間事業者等との連携による「馬」の特性を活用した事業の新たな検討・実施、また市が主体的に実施する馬関連事業やその取り組みへの支援など、「馬のまち・栗東」を前面に打ち出した、「馬事業」の更なる充実に向けた取り組みを重点的に進めていきます。

《想定される取り組み事例》

- 「馬に親しむ日」の充実
- 市民競馬教室「栗東ステークス」事業
- JRA栗東トレーニング・センター開設 50 周年記念事業の実施
- 市民対象のトレーニング・センター見学ツアー
- 市内JR駅への馬関連コーナーの設置とグッズ販売
- ホースセラピー事業等、民間事業への支援・協働
- （仮称）蹄鉄ロードの選定・整備

●重点プロジェクト3 「金勝山周辺エリア・施設」の活用・充実

【基本方針 - (3) 地域資源を活かした産業の振興 ・ IV 地域資源活用の基本的な取り組み-3-(1)】

☆目標 1：金勝山周辺エリアの活用促進

■金勝山周辺エリアは本市の自然資源としてのシンボルの一つである金勝山山系を含み、都市近郊における貴重な自然とのふれあいの場となっていることから、京阪神地域等の都市部からの来訪者も多く、本市の強みとなる地域資源となっています。このことから重要な観光資源と位置づけ、金勝山周辺エリアと施設等の活用・充実に向けた取り組みを重点的に進めていきます。

《想定される取り組み事例》

- 金勝山ハイキング実施事業の活用・充実
- 金勝めぐりちゃんバス事業の活用・充実（金勝名所・旧跡周遊コースの充実）
- 道の駅こんぜの里りっとうの活用・充実
- 森遊館の活用・充実
- 森の未来館の活用・充実
- 平谷球場の活用・充実
- CM等ロケ地としての金勝風景の活用・充実

●重点プロジェクト4 「街道と交流のまち」をテーマとした事業の展開

【基本方針- (2) 地域資源の活用に向けた意識の醸成 ・ IV地域資源活用の基本的な取り組み-2-(1)】

【基本方針- (4) 地域資源を通じた連携 ・ IV地域資源活用の基本的な取り組み-4-(1)】

☆目標1：歴史街道をいかしたまちづくりの連携・交流・充実

■旧五街道のうち、東海道と中山道が存在するのは全国で二市しかないこの特性は本市の強みとなる地域資源であることから有効活用していく必要があります。このことから、これら旧街道の特性を磨き、活かしながら歴史街道としての魅力の向上を図るための取り組みを重点的に進めていきます。

《想定される取り組み事例》

- 東海道ほっこりまつり等の活用
- 街道をいかしたまちづくりの広域連携

●重点プロジェクト5 「ふるさと応援寄附金制度」活用による地域ブランドの充実

【基本方針- (4) 地域資源を通じた連携 ・ IV地域資源活用の基本的な取り組み-4-(1)】

☆目標1：ふるさと応援寄附金制度の活用による地域資源と市のPRの連携

■ふるさと応援寄附金制度による記念品については、栗東市の豊かな自然と気候に恵まれた特産品やオリジナル馬関連グッズなど、本市の地域資源の積極的な活用を図ることで、生産者や事業者等による新たな商品開発などへの取り組み・連携を充実し、本市の地域資源のPRに向けた有効活用を図る取り組みとして重点的に進めていきます。

《想定される取り組み事例》

- ふるさと応援寄附金記念品贈呈事業のラインナップ充実
- ふるさと応援寄附金の活用

VI 活用ビジョンの推進体制

1 推進体制

(1) 推進体制の整備

市民・企業・各種団体・行政等で組織する外部組織「(仮称)シティセールス推進協議会」を新たに設置し、市の推進するシティセールス戦略の進捗状況と併せ、地域資源活用ビジョンの進捗状況について定期的に点検・評価を行うとともに、施策や事業に関する問題提起や改善提案を行い、必要に応じて活用ビジョンの見直しや取組内容の改善等を図っていきます。

本ビジョンに関わる分野は、産業、福祉、教育、文化など多岐にわたるため、地域資源活用施策にかかわる庁内関係各課で組織する「(仮称)シティセールス推進部会」を設置し、ビジョンにおける取り組みの進捗状況を年度毎に正確に把握するとともに、綿密な情報交換と連携によって計画の効率的かつ効果的な推進を図ります。

また、地域資源活用やシティセールスに関わる主要4課(元気創造政策課・商工観光課・農林課・広報課)によるコア会議を継続し、組織横断的な取り組みと情報共有を進めます。

(2) 関係機関等との連携

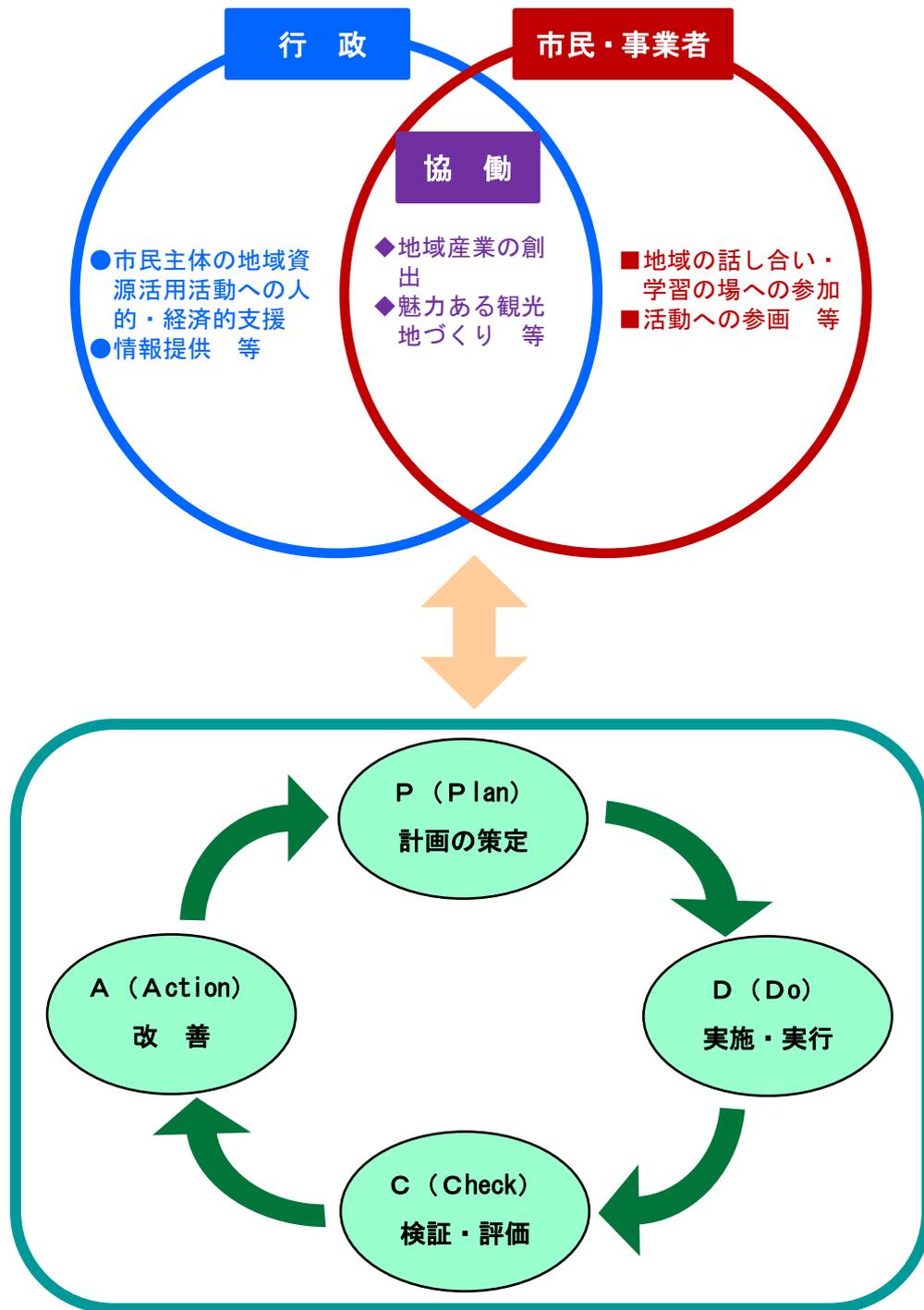
資源活用を進める際に、地域資源それぞれに関わる機関・団体・市民と資源ごとの所管部所との連携体制を整備します。

(3) 市民活動の推進体制の整備

資源活用に携わることのできる地域の様々な幅広い人材の確保に努めます。さらに、既存の市民団体等の組織、新たな活動団体との協働参画により、市民が資源活用の現場に参加しやすい体制づくりを支援します。

2 点検・評価

活用ビジョンの点検・評価については、上記の外部組織および庁内組織により、各年度における「地域資源活用ビジョン」に掲げる施策の達成度や成果の点検を行い、改善につなげることで、「PDCAサイクル」(「Plan(計画)」「Do(実施・実行)」「Check(検証・評価)」「Action(改善)」)の実効性を高めていきます。



参 考 资 料

1 栗東市シティセールス戦略・地域資源活用ビジョンの策定経過

■栗東市シティセールス戦略策定委員会（外部組織）

開催回	開催日・会場	検討内容等
第1回	平成27年6月15日（月） 市役所2階第1会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○委員の委嘱について ○栗東市シティセールス戦略策定委員会設置要綱等について ○委員長・副委員長の選出について ○報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源一覧について ○協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・シティセールス戦略・地域資源活用ビジョンの策定について（策定体制・スケジュール・構成案他）
第2回	平成27年7月30日（木） 市役所4階第3・4委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ○報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・第1回委員会における委員意見について ○協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・栗東市シティセールス戦略（素案）並びに栗東市地域資源活用ビジョン（素案）について
第3回	平成27年8月26日（水） 市役所4階第3・4委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ○報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・第2回委員会における委員意見について ○協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・栗東市シティセールス戦略（案）について ・栗東市地域資源活用ビジョン（案）について

■栗東市地域資源活用検討プロジェクト会議（庁内組織）

開催回	開催日・会場	検討内容等
第1回	平成27年6月10日（水） 市役所2階第2会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクトチーム員の委嘱について ○地域資源活用検討プロジェクト会議およびチーム員の役割について ○地域資源一覧について ○シティセールス戦略および地域資源活用ビジョンの策定について

第2回	平成27年7月8日(水) 市役所2階第2会議室	○第1回プロジェクト会議およびシティセールス戦略策定委員会での意見について ○シティセールス戦略の取り組みについて(ワーク作業) ○地域資源活用ビジョン(活用要素について)
第3回	平成27年8月19日(水) 庁舎2階第4会議室	○シティセールス戦略(素案)および地域資源活用ビジョン(素案)について ○シティセールスおよび地域資源活用にかかる重点プロジェクト(アクションプラン)の検討について

2 栗東市シティセールス戦略策定委員会 委員名簿

分野	氏名	所属等	備考
学識経験者	笠井 賢紀	龍谷大学社会学部専任講師	委員長
地域振興	富永 健二郎	栗東市地域振興協議会連絡会会長	副委員長
協働・市民活動	幡 郁枝	認定特定非営利活動法人しがNPOセンター事務局	
観光振興	田中 由美	栗東市観光物産協会理事	
商工振興 まちづくり	清水 厚芳	栗東市商工会青年部 (公益社団法人栗東青年会議所監事)	
農業振興	西村 聡司	栗東市農業協同組合経済部営農課	
林業振興 金勝山施設管理	金織 昭人	滋賀南部森林組合 道の駅こんぜの里りっとう 駅長	
馬関連事業所	松尾 雅洋	日本中央競馬会栗東トレーニング・センター総務課長	
メディア マスコミ	井上 みゆき	びわ湖放送株式会社報道制作部次長 (ディレクター・プロデューサー)	
市民青年層	溝口 紗耶	栗東市はたちの集い実行委員会前年度代表	
市民公募	山本 高之	一般公募	

(順不同、敬称略、所属・関係は委嘱時による)

※委嘱期間(平成27年6月15日~平成28年3月31日)

3 栗東市シティセールス戦略策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 栗東市シティセールス戦略(以下「シティセールス戦略」)および栗東市地域資源活用ビジョン(以下「活用ビジョン」)の策定にあたり、本市における地域資源を効果的に活用し、まちの活性化へ結び付けるための方策の検討とそれらの持つ魅力の情報発信による活力のある住みよいまちづくりに向けた都市イメージの創出を目指す具体的な取り組みの内容等について、市民、各種団体等からの意見を反映させることを目的として、栗東市シティセールス戦略策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、シティセールス戦略および活用ビジョンに盛り込むべき内容について検討を行い、意見を述べ、案を市長に提言する。

(組織構成等)

第3条 委員会は委員15人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係団体に所属する者
- (3) 公募による市民
- (4) その他市長が必要とする者

(任期等)

第4条 委員の任期は委嘱の日から平成28年3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長があらかじめ指名する副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は、委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が召集する。ただし、最初に召集される会議は、市長が召集する。

2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

3 会議は、委員の2分の1以上の出席がなければ開催することができない。

4 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の関係者を会議に出席させ、意見又は説明を求めることができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は政策推進部広報課に置く。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成27年4月27日から施行する。

4 地域資源 地域別一覧

< I. 治田 >

分類テーマ サブテーマ	I. 自然					II. 歴史(社寺・史跡)					III. 芸能・文学(祭り)				IV. 食べ物・特産品			V. 生活文化			VI. 遊び		VII. 取り組み		
	眺め	水	道	木	石	その他	石造遺品・石仏	遺跡	史跡	神社	寺	その他	祭	民話・伝承	行事	人	食文化	特産物	農産物	技術	住まい	水		拠点	催し
1. 下戸山				●五百井神社の御神木 ●小槻神大社の杉 ●安随寺のヤマモモ		五百井マンガン鉱山跡		小槻大社古墳群 山田遺跡 下戸山古墳 ●和田古墳群 五百井社古墳群		●五百井神社 ●小槻大社	源流寺 ●安随寺		●花傘踊り(小杖祭り)	●下戸山のまんがんせき							川崎家住宅		●ジャパンエースゴルフ倶楽部	●栗東市出土文化財センター・和田山古墳公園	
2. 岡			東海道(目川・岡)	●草の根広場の桜			●地山古墳		若宮神社	乗円寺		●花傘踊り(小杖祭り)	●岡小女郎				●目川の田楽							田楽茶屋 ほっこり庵	
3. 目川			東海道(目川・岡)	●専光寺の大イチョウ、マキ、イヌマキ		●目川池の水鳥			●一里塚跡 目川立場	●専光寺 ●地藏院(目川)		●花傘踊り(小杖祭り)	●砂ほりばばあ(てんころやぶ)				●目川瓢箪(長ひょうたん)							かたつむ邸	
4. 坊袋							坊袋遺跡		小槻神社(小杖大明神)	●大日堂 ●養尊寺		●花傘踊り(小杖祭り)			●大日盆 ●日待										
5. 川辺							下味古墳 灰塚山古墳群		稻荷神社	円重寺 善性寺		●花傘踊り(小杖祭り)	●川辺の三吉ぎつね ●灰塚伝承									●しんびょうしの霊水			
6. 安養寺			安養寺山観光道路の活用	●東方寺のマツ		市役所前サークルガーデン	●安養寺・石造十三重層塔	●椿山古墳 大塚越古墳 安養寺古墳群 新開古墳(1号古墳) (2号古墳) 山寺屋敷古墳 山の上古墳 毛刈古墳 安養寺遺跡 狐塚遺跡 椿山池ノ浦遺跡	市杵島神社 大宝神社 山之神社	●東方山 安養寺 ●安養寺 西福寺	泉面の雪花～雪化粧の東方山安養寺(栗東八景) 飛翔の羽音～秋、栗東自然観察の森(栗東八景)						サラブレッドサブレ					●栗東第三児童公園(通称:たご公園) 栗東第一児童公園(通称:城(しろ)公園)	●栗東自然観察の森		
7. 上鉤							●「鉤の陣」あと永正寺(鉤の陣顕彰碑) 上鉤遺跡		●大宝神社(天王神社)	●永正寺 満福寺															
8. 下鉤				●糠田部神社のエノキ ●稻荷神社のミズキ ●部令田神社のマキ	●鯉と鴨が泳ぐせせらぎ ●第一公園 ●第二公園		小松寺遺跡 ●蓮台寺遺跡 鉤の陣遺跡 下鉤城跡 下鉤遺跡	稻荷神社(下鉤・蓮台寺) 日吉神社(下鉤・蓮台寺) 額田部神社(糠田井) 泊瀬部神社 部令田神社	蓮台寺(移転) 称名寺 ●浄光寺	蓮台寺晩鐘(栗太八景)															
9. 小柿							●常勝寺・石造宝塔、宝篋印塔	小柿遺跡	●老牛馬養生所跡	●巖島神社 大宝神社 日吉神社	光圓寺 常勝寺 ●東方寺				●大師講(もち講)										
10. 中沢							中沢遺跡 小槻古墳群		●藪神社	西林寺 本象寺		●藪神社例大祭													
※複数地域							●岡遺跡(栗太郡衙跡) 下鉤東遺跡						●タナバタの豆おくれ ●栗の木の話	●左義長 ●伊勢講 ●献湯祭 ●百灯祭				●栗東メロン						マスコットキャラクター「くりちゃん」	

【出典】地域資源調査事業報告書(平成16年3月 栗東市商工会)

< II. 金勝 >

分類テーマ サブテーマ	I. 自然						II. 歴史(社寺・史跡)						III. 芸能・文学(祭り)				IV. 食べ物・特産品			V. 生活文化			VI. 遊び		VII. 取り組み	
	眺め	水	道	木	石	その他	石造遺品・石仏	遺跡	史跡	神社	寺	その他	祭	民話・伝承	行事	人	食文化	特産物	農産物	技術	住まい	水		拠点	催し	
11. 御園		●水車	●細川と川沿いの道	●桜・柳			中村遺跡 善勝寺古墳 御園遺跡 辻越遺跡 谷遺跡 谷出遺跡 山入古墳 上田遺跡 辻越B遺跡 八王子遺跡		中山神社 松倉神社	常福寺 ●教願寺 貞松庵 覚乗寺 松樹庵 薬師寺 ●覚園寺	弘暁の駒音 ～早朝の栗 東トレーニング・センター ～(栗東八景)	●御園太鼓踊		●山入のおコナイ ●山入・上田の山の神										●琵琶湖カントリー倶楽部	●JRA栗東トレーニングセンター ●馬に親しむ日 ●トレセン夏まつり	
12. 上砥山							上砥山遺跡 ●上砥山古墳群 龍王古墳 樋ノ口遺跡		●日吉神社(上砥山)	勝専寺 浄西寺	砥山夕照(栗太八景)	●野上神社濁酒祭 ●田楽踊り ●上砥山の濁酒祭 ●太鼓踊			●上砥山の山の神(ヤマノカミのおコナイ)			●からし漬 ●こんぜみそ							●滋賀県工業技術総合センター	●背高ひまわりコンテスト
13. 荒張	馬頭観音堂前駐車場(横ヶ峯展望台)、天狗岩からの眺望 森遊館バーベキュー場からの眺望 桂谷池の展望台 こんぜの里周辺の桜	●御香水	●金勝寺参道 ●ナンダサカ ●狛坂石段 ●金勝山ハイキングコース	●金勝の大杉 荒張の八大龍王 ●荒張のヒノキ(村境の大杉) ●金勝寺仁王門のモミ、金勝寺のマキ、カヤ、カエデ、クミ ●大野神社のアカガシ ●金勝寺参道不動谷のリンゴ	●金勝山の奇岩怪石	●旧山口寺・石造宝塔 金勝寺・下乗石 ●金勝山・茶沸観音 ●不動明王丁石 金勝山・小尾谷観音 ●成谷寺・石造宝燈 泣き地藏	永福寺遺跡 正徳寺遺跡 ●狛坂寺遺跡 金勝寺遺跡 美濃郷遺跡 春日社古墳群	●狛坂磨崖仏 ●隆興法印 宝篋印塔	●大野神社 ●春日神社	安楽寺(美之郷) 地藏院(雨丸) ●金勝寺 ●金胎寺 敬恩寺 正徳寺 宝樹院 成谷寺 善福寺 広徳寺 峯の堂 大通寺	夏清の幽玄 ～金勝寺と森林浴の森(栗東八景) 陽春の風光 ～栗東の森の薫風～(栗東八景)	●大野神社例大祭 ●地藏尊		●走井のおコナイ ●成谷・小脇の山の神		●琵琶湖ワイン 栗東のくりくり坊や 栗の木の植育						●滋賀日産リーフの森(栗東の森) ●こんぜの里・道の駅こんぜの里りっとう(自然活用総合管理棟) ●こんぜの里・パンガロー村 ●こんぜの里・森遊館(栗東市立森林体験交流センター) ●栗東市ボーイスカウト浅柄野野営場 ●太田ぶどう園(琵琶湖ワイナリー)	●農業技術振興センター花・果樹研究部 ●草の根農業小学校栗東校	Harves-Ta in HASHIRI		
14. 井上		●九品の滝		井上治右衛門邸のヤマモモ 井上幹雄邸のナシ			井上城跡 井上古墳 道久谷遺跡		岩神さん	吉祥寺 三因寺														●金勝牧場 ●こんぜ桃源郷		
15. 東坂				●春日神社のシイ 鶴飼重明邸のサルスベリ		●阿弥陀寺・石灯笼、石造無縫塔ほか	阿弥陀寺古墳 長道遺跡		●春日神社	●阿弥陀寺 宗安寺											鶴飼重明家					
16. 観音寺	●観音寺集落			●観音寺のツバキ			観音寺遺跡		白山神社	観音寺 善徳院				●観音寺のおコナイ			●栗園				三浦家住宅			栗東市立自然体験学習センター		
※複数地域													●栗の木の話	●伊勢講 ●献湯祭 ●百灯祭			栗東メロン ●イチジク								●全国植樹祭記念耐寒アベック登山大会 ●早朝ふれあいウォーキング	

【出典】地域資源調査事業報告書(平成16年3月 栗東市商工会)

<Ⅲ. 葉山>

分類テーマ	Ⅰ. 自然						Ⅱ. 歴史(社寺・史跡)						Ⅲ. 芸能・文学(祭り)				Ⅳ. 食べ物・特産品			Ⅴ. 生活文化			Ⅵ. 遊び	Ⅶ. 取り組み		
	眺め	水	道	木	石	その他	石造遺品・石仏	遺跡	史跡	神社	寺	その他	祭	民話・伝承	行事	人	食文化	特産物	農産物	技術	住まい	水		拠点	催し	
17.伊勢落							寿泉神社・六面石幢	相坂寺遺跡 金山古墳群 西蓮寺遺跡 ジョウレンジ遺跡 谷口遺跡 千本松遺跡 小割遺跡	千本松(伝斎宮跡)	●岩上神社 ●寿泉神社	真教寺 徳生寺	金山暮雪・伊勢落晴嵐(栗太八景)	●岩上神社祭礼(シトギ祭り)													
18.林				●新善光寺のクスノキ			●新善光寺・宝篋印塔 石造道標「石道印」 膳所藩私領傍示石	車塚古墳 林遺跡 多福寺遺跡 大塚古墳 イク塚古墳		●新善光寺 ●長徳寺 ●薬師堂	上野夜雨(栗太八景) 積日の海道と城跡～新緑の日向山と中和散～(栗東八景)	●高野神社神輿巡業		●薬師堂のオコナイ(ゴボウ講)												
19.六地藏	●日向山からの眺め	●日向山石段					顕彰碑 ●彰族碑 ●新善光寺道分岐道標 福正寺・石造層塔	唯心教寺遺跡 ●日向山古墳 ●日向山古墳群 岡山古墳 堂山古墳群 六地藏城跡 北尾遺跡 多喜山城跡	●旧中和散本舗(大角家住宅) ●薬師如来堂 ●製薬摺機(大角家住宅) ●旧中和散本舗庭園 ●梅ノ木立場 ●一里塚	●法界寺 高念寺 浄玖寺 福正寺	彼岸の繁華～彼岸、木洩れ日の新善光寺(栗東八景)	●高野神社神輿巡業		六地藏の山の神 ●雨乞の行事 ●堂の講		●大納言羊羹				●するが屋邸宅跡 ●やたべ邸宅跡						
20.小野				●肩替えの松			万年寺・宝篋印塔	小野遺跡 佐世川古墳群 佐世川古墳 佐世川遺跡 谷田古墳 石場山遺跡		●白鬘神社	●万年寺 光円寺 西蔵寺	赤坂掃樵(栗太八景)					●竹炭・竹酢液			●旧中島家住宅			●栗東歴史民俗博物館 ●栗東農業まつり			
21.手原				●稲荷神社のシイ			●清久寺・宝篋印塔	大西館遺跡 手原遺跡	●すずめ茶屋跡	●里中稲荷大明神(笠松の宮) ●天満宮(手原)	真慶寺 円徳寺 清久寺 行者堂(手原)	手原行人(栗太八景)		●手はらみ伝承						猪飼家長屋門 川崎睦男家住宅・川崎光雄住宅・里内家住宅	SL公園		●里内勝治郎と里内文庫 手原駅			
22.大橋									●三輪神社の繪籠	慶崇寺 薬師堂(大橋)				●三輪神社の繪籠 ●三輪神社お弓式神事 ●三輪神社春期大祭			●栗東あられ									
23.出庭							●出庭神社・宝塔	大乘寺遺跡 出庭古墳群 亀塚古墳	●出庭神社 天満神社(出庭宅屋) 天満神社(出庭中)	從縁寺 西光寺 松寿寺 法香寺(中) 最勝寺(中) 明受寺(宅屋)			●出庭神社春祭礼(餅搥き祭り)				●まるっぽ豆腐 ●アグリ	●アグリ		●門・土塁・水路のあるたずまい			●栗東市民夏まつり・野洲川花火大会 ●びわこ栗東駅伝クロカン in 野洲川 ●栗東クロスカントリー大会			
24.辻				●天満宮のマツ、ケヤキ、ムクノキ 円越寺のイチョウ				辻遺跡	●井口天神社	薬師堂(辻) 正覚寺 圓超寺					辻与次郎(辻)	いもつぶ(辻)	●栗東(くりあずま) ●善光寺ういろ			太田猪三郎 辻村の鑄物師						
25.高野				●高野神社のツバキ、サザンカ			●高野神社・石灯籠 ●松源院・石造宝塔 ●松源院・阿弥陀石仏	●岩畑遺跡 ●高野遺跡	●高野神社	行蔵寺(土) 長久寺(今里) ●松源院(小坂)			●高野神社神輿巡業									高野公園				
※複数地域													栗の木の話	●左義長 ●伊勢講 ●献湯祭 ●百灯祭			栗東メロン									

【出典】地域資源調査事業報告書(平成16年3月 栗東市商工会)

<IV. 大宝>

分類テーマ	I. 自然					II. 歴史(社寺・史跡)					III. 芸能・文学(祭り)				IV. 食べ物・特産品			V. 生活文化			VI. 遊び		VII. 取り組み			
	眺め	水	道	木	石	その他	石造遺品・石仏	遺跡	史跡	神社	寺	その他	祭	民話・伝承	行事	人	食文化	特産物	農産物	技術	住まい	水		拠点	催し	
26. 蜂屋							●蜂屋の石仏	蜂屋遺跡 ムネ寺遺跡 仏法寺遺跡 ボンシヤク寺遺跡 タイコウ寺遺跡 赤子塚遺跡		●宇和宮神社	永久寺 西方寺 蜂屋毘沙門堂 行者堂(蜂屋)							●蜂屋こんにやく								
27. 野尻								野尻遺跡		●日吉神社(野尻)	安楽寺 観音堂(野尻)															
28. 鏡				●大宝神社の大楠ノ木			仏眼寺・宝篋印塔	鏡遺跡	●大宝神社芭蕉句碑 ●足助風崖石碑	●大宝神社	西琳寺 仏眼寺 本覚寺 薬師堂	青麦の薫風～初夏の大宝神社～(栗東八景)	●大宝神社相撲祭 ●大宝神社例大祭				●牛肉のみそ漬 栗東パウム へそくり manju、へそくりパイ			西田家住宅	大宝公園	●栗東芸術会館さくら栗東駅	りっとうヤングフェスタ 栗東文化祭 市制記念式典 市音楽祭			
29. 苅原									唐崎神社 八幡神社(苅原)	正林寺																
30. 笠川								笠川城跡	稲荷神社(笠川)																	
31. 小平井									賽神社 蛭子神社	浄覚寺																
32. 霊仙寺				●正業寺雌雄の大いちょう			正業寺・石造宝塔	霊仙寺遺跡	八幡宮(霊仙寺)	金乗寺 称名寺 正業寺 毘沙門堂(霊仙寺)																
33. 北中小路								北中小路遺跡 笠川屋敷跡	正八幡神社(北中小路)	円光寺 真行寺 法林寺								●モモ								
34. 十里								十里遺跡	大將軍社(十里) 小安羅神社 八幡宮(十里)	金乗寺 仏台寺								●いちご園			ふれあい公園(通称:なまざ公園)					
※複数地域													栗の木の話	●左義長 ●伊勢講 ●献湯祭 ●百灯祭			●栗東メロン									

【出典】地域資源調査事業報告書(平成16年3月 栗東市商工会)

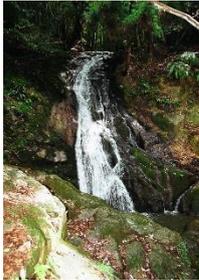
5 地域資源 テーマ別一覧

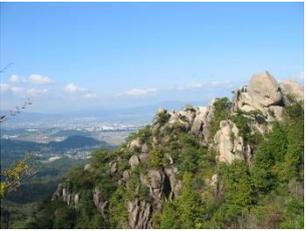
〈I. 自然〉

(地区の番号は資料1の地区番号に対応)

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
1	その他	<small>いおのい</small> 五百井マン ガン鉱山跡	下戸山の金勝川に沿って県道川辺一御園線が通っている安養寺山麓に位置する。明治21年(1888年)に発見されて以来、昭和38年(1963年)までの75年間マンガン鉱山として稼動した。本鉱山は、鉱床がかなり大規模で、鉱石の品位が高く、機械化の設備がゆきとどいていたため、他のマンガン鉱山に比べ長続きした。昭和23年(1948年)当時は、優秀な鉱石が月間三百トン産出された。 	治田	1
2	木	<small>いおのい</small> 五百井神社 の御神木	高さ35.8m、樹幹約5mの大きな杉の木は、左右に大きく枝を張り、石塚の中で堂々とそびえ立っており、この神社の御神木として、崇められている。樹齢約2千年とも言われ、672年の壬申の乱の時、大友皇子の子与多王が、この木に馬をつないだと伝えられている。 	治田	1
3	木	小槻大社の 杉	樹高18.4m、樹齢350年で上層の枝がくねっており老木の容相を呈している。古くから社頭の杉として尊崇されてきた。 	治田	1
4	木	安随寺のヤマモモ	庫裡裏に幹の周り3メートル、推定樹齢400年があり、風味に富む白いヤマモモの実がなる。老木を示すがごとく、幹に多くのコブを出している。 	治田	1
5	木	専光寺の大イチョウ	幹の周り約5メートル、推定樹齢350年の大イチョウ。江戸中期頃、専光寺が火災にあったとされるが、その時もすっかり生き残り、東海道を旅する人や江戸参勤交代の行列を、毎日眺めていた生き証人である。 	治田	3
6	木	専光寺のマキ	樹齢350年、樹高12.6m、幹の周り1.8m。平成2年(1990年)「栗東の名木」に選定された。	治田	3
7	木	東方山のマツ	樹高10m、幹の周り1.4mの五葉松。平成2年(1990年)「栗東の名木」に選定された。	治田	6
8	木	糖田部神社 のエノキ	樹高15m、幹の周り2.54m。平成2年(1990年)「栗東の名木」に選定された。	治田	8
9	木	稻荷神社の ミズキ	樹齢200年、樹高12.5m、幹の周り2.65m。平成2年(1990年)「栗東の名木」に選定された。	治田	8

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
10	水	御香水	<p>金勝寺の山上、「御香水井の水舎」に湧く清水は、古くから毎年正月十五日に京都御所に献上されてきた。この献水は明治3年(1870年)献上物廃止令によりなくなり、現在は拝観者の飲み水に供されているが、年末年始には「若水」として地元の人々が水をとりに訪れる。</p> 	金勝	13
11	道	金勝寺参道	<p>金勝寺への道は草津から草津川を東方に直進した道を金勝道といい、金勝寺へ上る道は、大野神社を基点とする西参道と、東坂からの東参道の二つの道があった。東参道と信楽道の分岐点となるところ、東並木林道入口に江戸末期の道標が残っている。大きな三角形の石材上部に地藏坐像を浮き彫りにし、その下に「すぐ金勝寺是より十五丁 左大とり志からきへ」と刻んでいる。</p> 	金勝	13
12	道	ナンダサカ 狛坂石段	<p>ふるさと創生事業で市民のアイデアを生かして、町の新しい名所をつくろうと整備された。昔の機関車が「なんだ坂、こんな坂…」と、きつい坂をのぼったのをもじったネーミング。21世紀への夢をかけるため、石段の数は2001段で、近畿一長い。</p> 	金勝	13
13	木	金勝の大杉	<p>金勝寺の近く、昔から「金勝の大杉」と呼ばれ、近隣の人々に親しまれている大木がある。高さ39.4m、樹幹5.2mを誇るこの木は、森の中でひっそりと威厳を保っている。昔、この寺を目指して山を登ってくる人達の案内役として、大切に育ててこられた。</p> 	金勝	13
14	木	荒張の八大 龍王雨池の 杉	<p>推定樹齢300年、樹高15m~25mの杉林。池の近辺で泉が湧き出し草木が生え杉の種が飛来して成長して今日のような杉林となった。</p>	金勝	13
15	木	荒張のヒノ キ(村境の 大桧)	<p>金勝寺参道入口にある、樹齢350年の桧。村境の大桧とよく言われ、昔から金勝寺に登る入口の目印になっていたと思われる。</p>	金勝	13
16	木	金勝寺仁王 門のモミ	<p>樹高34m、推定樹齢250年あまりの巨木。昭和9年(1934年)に台風に襲われるまでは、県内でもここだけがモミ、トガの大自然林であったが、今は点在するのみとなってしまった。</p>	金勝	13
17	木	金勝寺のマ キ	<p>天分18年(1549年)の災禍により土壌が焦土化したものの時期をみはらい、佛前にお供えする花のかわりとして植えられたものとされている。</p>	金勝	13
18	木	金勝寺のカ ヤ	<p>慶長年間(16世紀頃)、カヤの実を採取する目的で植樹されたとの推測があるが、結実した形跡は見あたらず実際のところは不明である。</p>	金勝	13
19	木	金勝寺のカ エデ	<p>金勝寺山門をくぐるとすぐ左側にある、樹高14メートル、推定樹齢300年の巨木。新緑時はすがすがしい青、特に雨滴の情景は言葉に表せないほど素晴らしく、また紅葉期の風情は、なにびとも心うごかす神秘性を秘めている。</p>	金勝	13
20	木	大野神社の	<p>樹齢400年の老木。樹高17.5m、幹の周り3.15m。平成2年(1990</p>	金勝	13

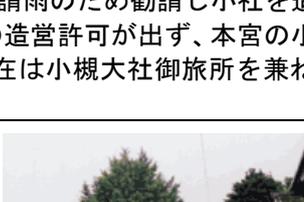
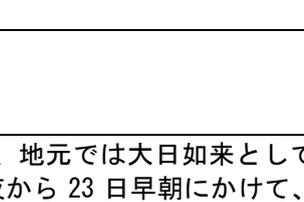
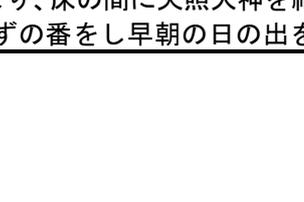
番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
		アカガシ	年)「栗東の名木」に選定された。		
21	木	金勝寺のクルミ	樹齢 150 年。樹高 15.5m、幹の周り 1.9m。 金勝寺現住職の祖父が長野県から苗を持ち帰り植樹されたと言われている。	金勝	13
22	木	金勝寺参道 不動谷のリンゴ	樹高 20 メートル、推定樹齢 300 年で、走井から旧参道のあたりにある大木。リンゴの木は日本には原生種はなく、すべて外国から渡来したものであることから、江戸初期に植えられたこのリンゴの木は、いったい何の目的で、どこから来たのか、大変謎の多いロマンを秘めた木である。	金勝	13
23	水	くほんのたき 九品の滝	井上から観音寺へ通じる道を少しそれたところにある。上滝、中滝、下滝の三つに分かれ、総高約 20m、溪谷は全長 100mを越し、湖南地方最大の規模を誇っている。さわやかな溪流の水音が、さながら仏教でいう九品浄土の音楽にも似るといふところから名付けられている大自然のすばらしい景観である。 	金勝	14
24	木	井上治右衛門 邸のヤマモモ	樹齢 200 年、樹高 13.0m、幹の周り 3.0m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	金勝	14
25	木	井上幹雄邸 のナシ	樹齢 200 年、樹高 14.5m。幹の周り 2.0m。屋敷の西南方向の隅にあり、鬼門等厄除けのため植えられたとされている。	金勝	14
26	木	春日神社の シイ	樹齢 200 年、樹高 22.0m、幹の周り 2.7m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	金勝	15
27	木	鶺鴒重明邸 のサルスベリ	樹齢 280 年、樹高 11.5m、幹の周り 1.6m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	金勝	15
28	木	観音寺のツ バキ	樹齢 250 年、樹高 3m、幹の周り 1.6m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	金勝	16
29	木	新善光寺の クスノキ	樹齢 200 年、樹高 21.1m、幹の周り 3.1m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	葉山	18
30	眺め	日向山から の眺め	標高 223mのほぼ円錐形の山。頂上からは、栗東市内・野洲川・湖南平野が一望できる。山頂には、神を祀る時に、神霊の宿る霊石・磐座があり、近世以降に水の神として竜王神の祠がまつられている。 	葉山	19
31	道	にっこう 日向 いしだん 石段	ふるさと創生事業で、721 段の石段が整備された。 	葉山	19
32	木	稲荷神社の シイ	直径 1.5mほどで、数多くの幹に分かれた、推定樹齢 300 年の大木で、風雪にたえぬいてきた貫禄がにじみ出ている。昔、東海道を上り下りする旅人たちが、この木の下で、しばしの休息をたのしんだ。	葉山	21
33	木	天満宮のマ ツ	樹齢 250 年、樹高 30.3m、幹の周り 3.0m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	葉山	24

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
34	木	円越寺のイチョウ	樹齢 300 年、樹高 26.5m、幹の周り 4.2m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	葉山	24
35	木	天満宮のケヤキ	樹齢 250 年、樹高 23.3m、幹の周り 3.6m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	葉山	24
36	木	天満宮のムクノキ	樹齢 300 年、樹高 18.0m、幹の周り 3.9m。 平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	葉山	24
37	木	高野神社のツバキ	樹高 10m、幹の周り 1.21m。平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	葉山	25
38	木	高野神社のサザンカ	樹高 9m、幹の周り 1.8m。平成 2 年(1990 年)「栗東の名木」に選定された。	葉山	25
39	木	大宝神社の大楠ノ木	神社本殿に向かって右手に高さ 24m、樹幹 4.7mと、非常に大きな楠木がある。多くある緑の中で、ひときわ立派なこの木は、神社の守り主の風貌を保っている。 	大宝	28
40	石	こんぜやま 金勝山の きがんかいせき 奇岩怪石	金勝山ハイキングコースは、かつては修験者の修行の道であった。桐生キャンプ場から登山道を歩いて一時間余り。狛坂磨崖仏を越えてさらに登り続けると、見晴らしのいい、「国見岩」。さらに峰道を歩けば、「重岩(かさねいわ)」。北峰縦走線を北にとると、10 分で「耳岩」、さらに 15 分ほどで「天狗岩」と、高さ 5m ほどの巨岩・奇岩が次々と顔を出す。 		13
41	道	こんぜやま 金勝山 ハイキング コース	緑豊かなまちの南部にそびえる金勝山(阿星山・竜王山・鶏冠山)などをはじめとした湖南アルプス。その中でも竜王山には平安時代の仏教文化の一翼を担っていた金勝寺や平安時代に作られたといわれる狛坂磨崖仏などがあり、これらの史跡をたどるハイキングコースが整備されている。ハイキングコースには、耳岩や天狗岩など自然にできた珍しい形の岩があり、そこからみる眺望は壮大。 		13
追加	眺め	馬頭観音堂前駐車場(横ヶ峯展望台)、天狗岩からの眺望	金勝山ハイキングコースの中で、馬頭観音堂、天狗岩は特に眺望のすばらしいところであり、観光物産協会主催のハイキングの参加者からも毎回、感嘆の声が聞こえるほどである。金勝山ハイキングコースの中にあり、馬頭観音堂は出発点、天狗岩は北峰縦走線に位置している。 	金勝	13
追加	その他	市役所前サークルガーデン	平成 24(2012)年度からコミュニティガーデンとして市役所前等のガーデン整備を行い、毎月の手入れの中で住民同士の交流が図られるとともに、庁舎前の円形の植え込み部分や立体駐車場側の細長い花壇に各種の草花が植えられ、庁舎を訪れる市民を楽しませている。	治田	6
追加	眺め	観音寺集落	観音寺集落内の展望台からは、「栗東市景観計画」の表紙にもなっている琵琶湖や安養寺山などを一望することが出来る眺望景観や昔ながらの街並み、沿道の水仙畑など、のどかで豊かな里山風	金勝	16

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
			景といった景観資源が残っている。また、当地区では平成 20 (2008)年度に国土交通省の事業補助を受けたことを契機として、琵琶湖の眺められる集落としての地域性を活かし、地域住民で構成された「観音寺天水木族」が中心となり、様々な景観まちづくり活動に取り組まれている。		
追加	道	東海道(目川・岡)	東海道は、江戸時代以前より人馬と情報の往来幹線として整備された歴史文化に富んだ街道であり、その中で目川、岡地域は、宿場をつなぐ休憩所「目川立場」として栄えていた。現代においても、寺院、住宅、垣、塀、石碑など、往時の街道筋の雰囲気等が随所に残っている。地域においては、住民で構成された「東海道ほっこりまつり実行委員会」が中心となり、平成 19 年(2007 年)から、東海道の一部区間を 1 日車両通行止めにして開催される「東海道ほっこりまつり」など、景観まちづくり活動を展開されている。	治田	2.3
追加	道	安養寺山観光道路	安養寺山の山頂まで、道沿いに桜が植えられ山を遠くから眺めると、桜の回廊のように見える桜の観光スポットであったが、平成 25 年(2013 年)台風 18 号による災害により損壊。	治田	6
追加	眺め	森遊館バーベキュー場眺望	森遊館にあるバーベキュー場から眺められる市内を一望できるパノラマ眺望は大変素晴らしく、特に晴れた日の夜景はお薦めの絶景である。	金勝	13
追加	眺め	桂谷池の展望台	日向山階段を含め、なんだ坂こまさか(国の1億円事業)が整備されており、ハイカー等利用者が休憩をされる場として、圃場整備事業により階段下付近に琵琶湖が一望出来る展望台が設置してある。風景案内板の設置もしており、視点場として有効な観光場所に活用できると思われる。 	金勝	13
追加	眺め	こんぜの里周辺の桜	こんぜの里の足湯場から一望可能。グランドゴルフ場の進入路沿線。	金勝	13
追加	木	草の根広場の桜		治田	2
追加	木	専光寺のイヌマキ		治田	3
追加	その他	目川池の水鳥		治田	3
追加	木	部令田神社のマキ		治田	8
追加	その他	鯉と鴨が泳ぐせせらぎ		治田	8
追加	その他	第一公園		治田	8
追加	その他	第二公園		治田	8
追加	水	水車		金勝	11
追加	道	細川と川沿いの道		金勝	11
追加	木	桜・柳		金勝	11
追加	木	肩替えの松		葉山	20
追加	木	正薬寺雌雄の大いちょう		大宝	32

＜Ⅱ. 歴史(社寺・史跡)＞

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
1	史跡	一里塚跡	東海道・中山道など主要街道に江戸日本橋を起点として、一里(36町)ごとに里程標が設けられた。これが一里塚であり、道の両側には五間四方の塚が設けられ、棕、榎や松の木立ちがあった。栗東市内には目川と六地蔵(梅の木)にあった。現存する一里塚は、中山道守山宿の南はずれにある。 	治田 葉山	3 19
2	遺跡	小槻大社古墳群	小槻大社境内を中心に広がる古墳群。古墳時代。方墳・円墳 10基以上。 	治田	1
3	遺跡	山田遺跡	窯跡。白鳳～奈良時代。丘陵に登窯 2支群が確認され、須恵器・瓦が出土。手原遺跡などに供給されている。 	治田	1
4	遺跡	下戸山古墳	墓地の中にある現状直径 50mの古墳。葺石が確認されているが、詳細は不明。4世紀。 	治田	1
5	遺跡	和田古墳群	古墳時代後期、6世紀中頃から7世紀の初め頃(今から約 1400年前)につくられた 9基の古墳からなる群集墳。遺体を安置する石室から、たくさんの副葬品が見つかった。土器や武器、工具、装身具、馬具などで、中には金で装飾された馬具や、純金製金環など豪華なものもみられる。 	治田	1
6	遺跡	五百井社古墳群	古墳群。古墳時代。山腹。現状山林。詳細不明。 	治田	1
7	神社	いおのいじんじや 五百井神社	延喜式の式内社(栗太郡八座の内)のひとつ。創祀年代不詳。古代豪族蘆井造の祖を祀るともいうが明らかでない。下砥山村の鎮守として篤く崇敬されてきた。安養寺山の麓にあり、山頂に古木に囲まれた山王社と龍王社の小祠がある。山王社こそは、蘆井に坐す神が降臨する場所ではなかったかと考えられる。(平成 25 年(2013 年)台風 18 号安養寺山土砂災害により社殿倒壊) 	治田	1
8	神社	おつきたいしや 小槻大社	この地方の山々を支配した小槻山君一族の氏神で、静かな神域には古墳が散在し、美しい本殿は室町時代の重要文化財である。延喜式の式内社(栗太郡八座の内)である。 	治田	1

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
9	寺	源流寺	浄土真宗本願寺派。永正7年(1510年)僧了西開基。本願寺実如から阿弥陀如来の画像を下付され、現在地に道場を建てたのに始まる。 	治田	1
10	寺	安随寺	真宗大谷派。天和3年(1683年)僧浄斎開基。正徳5年(1715年)聖徳太子影像、七高僧図が惣道場安随寺へ本願寺から授与されている。 	治田	1
11	遺跡	じやまこふん 地山古墳	帆立貝形の前方後円墳。古墳の大きさは、墳長90mで、幅13m~15m、深さ3mの濠が巡っている。平地に立地する古墳では県下でも最大級の規模。5世紀前半における当地域の首長墓。 	治田	2
12	神社	若宮神社	文政4・5年(1822年)大旱魃に際し、請雨のため勧請し小社を造営したが、膳所藩主から神社としての造営許可が出ず、本宮の小槻大社遥拝所として許可された。現在は小槻大社御旅所を兼ねている。 	治田	2
13	寺	乗円寺	真宗大谷派。天和元年(1681年)僧利慶開基。 	治田	2
14	寺	専光寺	真宗大谷派。津田近江守昌国が蓮如に帰依して釈光念と名を改め、応仁元年(1467年)に道場を建てたことに始まる。 	治田	3
15	寺	地藏院(目川)	浄土宗。天文13年(1544年)僧教貞開基。観音菩薩像は市指定文化財。平安時代の造像とされる。 	治田	3
16	遺跡	坊袋遺跡	集落跡。弥生~古墳時代。平地。 	治田	4
17	神社	小槻神社 (小杖大明神)	下戸山の小槻大社を分祀した。 	治田	4
18	寺	大日堂	本尊は石造で阿弥陀如来像であるが、地元では大日如来として信仰されている。行事は1月22日夜から23日早朝にかけて、16歳から35歳の男子が会議所に集まり、床の間に天照大神を祀り鏡餅を供え灯明をあげ、全員が寝ずの番をし早朝の日の出を 	治田	4

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
			礼拝して終わる。		
19	寺	養専寺	真宗大谷派。天正 15 年(1587 年)光覚が本願寺顕如に帰依し、顕如から方便法身尊像を下付され自宅を道場にしたことに始まる。 	治田	4
20	遺跡	下味古墳	直径 35mの円墳。粘土槨の主体部から鏡・玉類・石製品・鉄器などが出土。5 世紀。現存せず。	治田	5
21	遺跡	灰塚山古墳群	前方後方墳 1 基、円墳数基からなる古墳群。過去に周辺から甕棺・陶質土器が出土。	治田	5
22	神社	稲荷神社	祭神は倉稲魂命。 	治田	5
23	寺	円重寺	真宗大谷派。延宝 4 年(1676 年)光英開基。 	治田	5
24	寺	善性寺	真宗大谷派。慶安 2 年(1649 年)玄龍開基。 	治田	5
25	石造 遺品 ・石仏	安養寺・石造十三重層塔	鎌倉後期の国指定重要文化財。特筆すべきは基礎部側面に三方の格挟間(こうざま)を刻み、他の一面を左右の区分に分けて、内部に一体ずつ合掌する僧形坐像を浮き彫りにしている点で、他に例を見ない個性豊かな優れた遺品である。 	治田	6
26	遺跡	椿山古墳	全長 99mの帆立貝式の前方向後円墳で、墳丘の周囲には幅約 18mの周濠が巡る。前方部は破壊されており、その際、鉄剣・鉄刀・短甲などが出土している。5 世紀中頃の築造で、この地域の首長墓。 	治田	6
27	遺跡	大塚越古墳	古墳。古墳時代。前方後円墳(全壊)・鏡・玉類・石製品・鉄器・武具などが出土している。 	治田	6

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
28	遺跡	安養寺古墳群	古墳群。古墳時代。丘陵。現状山林。円墳4基・前方後円墳1基。 	治田	6
29	遺跡	新開古墳 (1号古墳) (2号古墳)	鏡や盾・短甲・冑といった武具、鉄剣・鉄刀・鉄鏃といった武器、鞍・鎧などの馬具、工具などが大量に出土したことで知られ、特に馬具は古墳からの出土品としては初期のもので、朝鮮半島からの輸入品と考えられる。5世紀。	治田	6
30	遺跡	山寺屋敷古墳	5世紀の古墳。丘陵。円墳(全壊)・朱・鉄器が出土している。	治田	6
31	遺跡	山の上古墳	5世紀の古墳。丘陵。円墳で粘土槨(全壊)・鏡・玉類・鉄器・石製品・朱が出土している。	治田	6
32	遺跡	毛刈古墳	5世紀の古墳。丘陵。粘土槨(全壊)・鏡・玉類・石製品が出土している。	治田	6
33	遺跡	安養寺遺跡	寺院跡・集落跡。丘陵。伝承地。	治田	6
34	遺跡	狐塚遺跡	古墳群・集落跡。縄文～平安時代。平地。竪穴住居・帆立貝形前方後円墳・円墳・方墳、井戸など石器・縄文土器・埴輪・須恵器・木製品などが出土している。	治田	6
35	遺跡	椿山池ノ浦遺跡	集落跡。古墳～奈良時代。平地。溝などから土師器・須恵器が出土。	治田	6
36	神社	市杵島神社	祭神は市杵島姫命、東方山安養寺の護法社として勧請されたとされる。	治田	6
37	神社	大宝神社	祭神は素戔鳴命。	治田	6
38	神社	山之神神社	祭神は大山祇命。山の神として祀られる。	治田	6
39	寺	東方山安養寺	天平年間に聖武天皇の勅願により建立されたと伝えられ、江戸時代には皇室の崇敬も篤かった。本尊薬師三尊をはじめ石造十三層塔など、重要文化財が多く残っている。また庭園は県指定名勝になっており江戸時代のもので、美しいさつきと琵琶湖を模った池に、近江八景を配した構成の静かな佇まいである。真言宗泉涌寺派。 	治田	6
40	寺	安養寺	真宗大谷派。応永23年(1416年)良舜開基。鈎山・蓮池院・安養寺と言う。本願寺蓮如由来寺院。当寺はかつて東方山安養寺十二坊の内の一坊と伝えられ、市文化財に指定されている鎌倉時代の絹本着色阿彌陀如来像、南北朝時代の阿彌陀三尊来迎図の他、明応2年(1493年)実如裏書の親鸞上人絵像、蓮如裏書の三帖和讃、報恩講で使われる蓮如上人縁起等貴重な文化財を伝存する。 	治田	6

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
41	寺	西福寺	浄土宗。文安5年(1448年)僧西福開基。 	治田	6
42	遺跡	「鉤の陣」 あと永正寺 鉤の陣顕彰 碑	現永正寺一帯は、足利義尚陣所跡として名高い。長享元年(1487年)義尚は、戦国大名六角高頼討伐のため近江に出陣した。鉤に陣所を設営して、六角氏攻略の前線基地としたが、当の六角氏はわずかな戦闘をしただけで、甲賀に逃亡。一方、義尚は、連日酒宴・遊興にふけり、ついに25歳の若さで当陣所において逝去した。	治田	7
43	遺跡	上鉤遺跡	集落跡。弥生～鎌倉時代。平地。現状水田。溝・堀立柱建物・勾玉。	治田	7
44	神社	大宝神社 (天王神社)	長享元年(1487年)、足利将軍が近江守護の佐々木高頼親征のため当地に本陣を置いた際、遥拝所として大宝天王を勧請した。	治田	7
45	寺	永正寺	遺跡・「鉤の陣」あと参照。真宗大谷派。永正年間(1504年～1520年)に僧浄心が荒廃した足利将軍の本陣跡に一寺を建てて永正寺と号したことに始まる。 	治田	7
46	寺	満福寺	浄土真宗本願寺派。享保11年(1726年)僧照哲開基。 	治田	7
47	遺跡	小松寺遺跡	寺院跡。平地。伝承地・瓦。	治田	8
48	遺跡	蓮台寺遺跡	寺院跡・集落跡。平地。	治田	8
49	遺跡	鉤の陣遺跡	陣跡。室町時代。足利義尚本陣(真宝館)跡か?	治田	8
50	遺跡	下鉤城跡	館跡。中世時代。平地。伝承地・字名。	治田	8
51	遺跡	下鉤遺跡	集落跡・墓地。縄文～中世。平地。溝・竪穴住居・方形周溝墓・掘立柱建物。	治田	8
52	神社	稲荷神社 (下鉤・蓮台 寺)	祭神は倉稲魂命で、旧蓮台寺境内にある。	治田	8
53	神社	額田部神社 (糠田井)	祭神は小泊瀬部若雀命、額田部姫命で、別名は武列天皇と推古天皇。地名の糠田井は額田部が転訛したとされる。額田部連は、近江に縁の深い氏族といわれ、当地は祖神の斎場であつたらしい。古来剣難除けの神として信仰がある。	治田	8

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
54	神社	はつせべ 泊瀬部 じんじゃ 神社	祭神は泊瀬部若雀天皇、別名崇峻天皇で、その所領地であったことから勧請されたい。かつては老杉の大木があったが、落雷などで昭和52年(1977年)に枯死し、今は二世の木が育っている。この杉の葉を産室に敷くと安産できるという伝説がある。	治田	8
55	神社	日吉神社 (下鉤・蓮台寺)	蓮台寺の護法神として蓮台寺が天台宗に転宗した頃に勧請されたい。	治田	8
56	神社	部令田神社	べれた又はべらたじんじゃ。	治田	8
57	寺	蓮台寺(移転)	天台宗。寺伝によれば、延暦8年(789年)僧最澄の草創。かつては、金勝寺二十五別院の一つであった。安置されていた薬師如来像は脇侍を備え、明治33年(1900年)国宝に指定、現在は延暦寺に保管されている。寺院機能は守山市に移転。現在は寺地跡に鎮守の日吉社等があり、他は地元の自治会館や福祉施設になっている。	治田	8
58	寺	称名寺	真宗仏光寺派。延宝4年(1676年)僧実祐開基。本尊は阿弥陀如来像。	治田	8
59	寺	浄光寺	開基は室町時代後期。真宗仏光寺派の寺院。鎌倉時代、貞明によって作られたと伝えられる木造阿弥陀如来立像(国重要文化財)を本尊とする。近くに額田部神社がある。真宗仏光寺派。	治田	8
60	石造 遺品 ・石仏	常勝寺・石造宝塔	小さい門をくぐってすぐ右の植え込みの中にある。小さい塔であるが高いところに位置しているため立派に見える。鎌倉末期の作。	治田	9
61	石造 遺品 ・石仏	常勝寺・宝篋印塔	本堂裏の植え込みの中にある。基礎は上下に対して左右に大きく枠を取っており、内部格狭間内に宝瓶三茎蓮を四面に刻んでいる。鎌倉中期のものか。	治田	9
62	遺跡	小柿遺跡	集落跡・墓地。縄文～中世。平地。溝・竪穴住居・方形周溝墓・堀立柱建物。墓跡。弥生～平安時代。平地。現状水田・宅地。方	治田	9

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区	
			形周溝墓・溝・堀立柱建物。			
63	史跡	老牛馬養生所跡	天保12年(1841年)4月、滋賀郡和邇村の岸岡長右衛門が発起人となり、東海道・中仙道の分岐にほど近い小柿村新屋敷に老牛馬の養生所を建設した。ここでは、周辺の村々で労役を果した老廃牛馬を大切に養育し、天寿を全うさせた。	治田	9	
64	神社	巖島神社	祭神は市杵島姫命。伊佐々川沿いに鎮座する。新屋敷に村が形成された頃に水の確保を祈念して勧請されたい。通称は弁財天社という。	治田	9	
65	神社	大宝神社	常勝寺に鎮座する。常勝寺が天台宗の寺院であった当時の護法神として勧請されたい。	治田	9	
66	神社	日吉神社	かつて天台寺院であった東方寺の護法社として勧請されたようである。	治田	9	
67	寺	光圓寺	浄土真宗本願寺派。寛永10年(1633年)木仏安置、寺号公称許可。詳しくはわからないが、隣村下鉤にあった天台寺院の名刹蓮台寺の一坊であったと伝えられる。		治田	9
68	寺	常勝寺	時宗。本尊は阿弥陀如来像。元の本尊は地藏菩薩(脇侍は不動尊、毘沙門天)とする天台寺院であった。寺伝によれば、延文元年(1356年)住職の実円が時宗道場としたと言われ、この時本尊が阿弥陀如来像となった。それまでの本尊は本堂横の地藏堂へ移され祀られている。		治田	9
69	寺	東方寺	天台宗寺院として建立されたが、元亀天正の兵火により焼失し、現在は延宝3年(1675年)に建立された薬師堂のみが残されている時宗寺院である。周辺の小字名や、平安時代から江戸時代までの多くの仏像を安置していることから、かつて大きな伽藍を構えていたであろうことがうかがえる。本尊薬師如来座像の右脇侍月光菩薩像は地方色が濃く、その造像は古様で本尊よりさかのぼる。また11世紀の作と考えられる天部像は、四体で一具性を持つ四天王像と兜跋毘沙門天像であり、本尊左脇侍として転用される十一面観音菩薩像は12世紀の美作である。時宗。		治田	9
70	遺跡	中沢遺跡	集落跡。弥生～中世時代。平地。現状水田・畑地・工場地。堀立柱建物・堰跡・井戸・溝・流路(一部草津市)。	治田	10	
71	遺跡	小槻古墳群	古墳群。古墳時代。平地。字名・伝承地。円墳9基(全壊)・刀剣・勾玉が出土したと伝わる。	治田	10	
72	神社	くさびらじんじゃ 菌 神社	社伝に舒明天皇9年(637年)勧請する所とあり、草平社と称えたが、後に草平大明神と称し、明治維新より菌神社となっている。膳所城主の崇敬厚く、庇護を受けた。本殿は江戸中期の建物。正月のオコナイと5月の例祭には、雑魚のナレズシの神饌を供える。きのこの神様として注目		治田	10

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
			され、多くの関係者が訪れる。		
73	寺	西林寺		治田	10
74	寺	本象寺		治田	10
75	遺跡	岡遺跡(栗 太郡衙跡)	近江国栗太郡(評)衙跡(古代の役所)と推定される遺跡。7世紀から11世紀にかけての大規模な掘立柱建物群とそれらを区画する溝からなる。特に奈良時代前半には、南北300m・東西200の範囲を溝により区画し、それぞれの区画内には長大な建物といった特徴ある建物群が配置されている。 	治田	1,2,3
76	遺跡	下鈎東遺跡	集落跡。古墳～中世。平地。堀立柱建物跡などから須恵器・土師器などが出土。	治田	7,8
77	遺跡	中村遺跡	集落跡。古墳～中世。平地。竪穴住居・堀立柱建物・鑄造遺構。	金勝	11
78	遺跡	善勝寺古墳	古墳。古墳時代。石棺(水盤か)。	金勝	11
79	遺跡	善勝山寺古墳	古墳。古墳時代。全壊・石棺(水盤か)。	金勝	11
80	遺跡	御園遺跡	窯跡。丘陵。登窯、瓦・陶質土器が出土。	金勝	11
81	遺跡	辻越遺跡	窯跡。奈良時代。丘陵。登窯・灰原から須恵器が出土。	金勝	11
82	遺跡	谷遺跡	窯跡。奈良時代。丘陵。登窯・灰原	金勝	11
83	遺跡	谷出遺跡	窯跡。奈良時代。丘陵。登窯・灰原・須恵器が出土。	金勝	11
84	遺跡	山入古墳	古墳。古墳時代。丘陵。石棺蓋。	金勝	11
85	遺跡	上田遺跡	窯跡。奈良時代。丘陵。登窯・灰原	金勝	11
86	遺跡	辻越B遺跡	集落跡。平安～室町時代。山麓・平地。堀立柱建物・溝。	金勝	11
87	遺跡	八王子遺跡	集落跡。平安時代。山麓・平地。堀立柱建物・溝。	金勝	11
88	神社	中山神社	八王子社とも称する。延暦寺領であったことによる。社地は古墳上であることや、御神体が木製の檜だったと伝えられることから、相当古くから祀られていたと伝える。蔵町自治会が護持している。	金勝	11
89	神社	松倉神社	松蔵山に鎮座していることから松倉神社と言われる。	金勝	11
90	寺	常福寺	浄土宗。永禄5年(1562年)僧堯珍中興開基。山入にある。本尊は三尺三寸の金剛界大日如来で天平時代のものと言われている。境内に鎮守の社があることなどからも、かつては金勝寺の一坊であったと考えられている。 	金勝	11

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
91	寺	教願寺	真宗大谷派。山入にある。永正7年(1510年)天台宗寺院として僧勝林が開基したものを、慶長11年(1606年)僧教願が改宗した。金勝寺の交衆三浦掃部が本願寺教如に帰依し、入道して教願と称して真宗道場とした。元和3年(1683年)木仏安置、寺号公称許可。かつては金勝寺の一坊であった。 	金勝	11
92	寺	貞松庵	浄土宗。享禄元年(1528年)僧源誉貞存開基。辻越にある。本尊阿弥陀如来。現在堂はない。	金勝	11
93	寺	覚乗寺	真宗大谷派。辻越にある。黒田宗重は、越前の吉崎御坊で蓮如上人の教化を受け、入道して松林の号を授かった。永正年中(1504年~1521年)に帰郷して当寺に入り真宗に改宗した。元禄14年(1701年)木仏安置、寺号公称許可。かつては金勝寺の一坊であったと考えられている。 	金勝	11
94	寺	松樹庵	浄土宗。永禄元年(1558年)僧松誉壽貞開基。辻越にある。本尊阿弥陀如来。	金勝	11
95	寺	薬師寺	浄土宗。元亀元年(1570年)僧善阿改宗中興。蔵町にある。本尊薬師如来は平安時代後期の作。もとは金勝寺の一坊であったものを善阿が改宗した。天部像として多聞天と持国天の二像を伝える。 	金勝	11
96	寺	覚圓寺	浄土真宗本願寺派。永正12年(1515年)僧覚円開基。中村にある。織田信長と石山合戦の際、当村門徒は本願寺顕如の檄に応じて信長軍と戦ったことに由来して、毎年七月に開催される本山朝講に、当寺門徒三人が列席するという慣例が古来から続いている。寛文11年(1671年)木仏安置、寺号公称許可。 	金勝	11
97	遺跡	上砥山遺跡	集落跡。奈良~室町時代。平地。堀立柱建物・溝・井戸。	金勝	12
98	遺跡	上砥山古墳群	古墳群。古墳時代。山麓。現状山林。円墳数基か・横穴式石室・石棺。	金勝	12
99	遺跡	龍王古墳	上砥山麓にある円墳。内部の石棺の形から、6世紀後半に築造されたものと推定される。横穴式石室で、天井や側壁は一部なくなっている。	金勝	12
100	遺跡	樋ノ口遺跡	窯跡。奈良時代。平地。瓦が出土。	金勝	12
101	神社	日吉神社 (上砥山)	金勝寺鎮守の神として願安が弘仁4年(813年)勧請したと伝えられる。金勝寺の傍にあったと言われる。明治以前は十禅師社と称した。中秋の名月の夜に太鼓踊りが奉納される(現在は9月第一土曜日)。 	金勝	12

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
102	寺	勝専寺	浄土真宗本願寺派。寺伝によれば、天台宗十輪坊の弟芝原又四郎重清が文明年間(1469年～1487年)に蓮如上人に帰依し、入道し玄意と称し一庵を建て、蓮如上人から六字名号を授与されたことに始まる。大永2年(1522年)本願寺実如から方便法身尊像を授与されて道場の本尊とする。慶長12年(1607年)寺号公称許可。天和3年(1683年)木仏を安置し本尊とした。 	金勝	12
103	寺	浄西寺	浄土宗。大永3年(1523年)中村新右衛門が入道して浄西と号し、草庵を建て浄西寺としたことに始まる。当寺の地藏堂には、明治の神仏分離の際、日吉神社の本地仏であった地藏菩薩像が移され安置されている。 	金勝	12
104	石造 遺品 ・石仏	旧山口寺・ 石造宝塔	町内には宝塔が8基あるが、その中でも最も保存がよく、整備された形を示している。町の文化財に指定されている。 (現在は金勝寺裏庭に移転)	金勝	13
105	石造 遺品 ・石仏	金勝寺・下 乗石	南北朝時代の作で、方形の基団の上に花崗岩製で高さ149.5センチの板碑形のもの。金勝寺から狛坂磨崖仏に向かうハイキングコースを500mほど行った所に位置していたが、現存せず。	金勝	13
106	石造 遺品 ・石仏	金勝山・小 屋谷観音	かつてはもっと上の方にあったものが転落し、横倒しになって天を向いた如来坐像。像高は100.5cmで鎌倉の作とされている。整った姿で、穏やかな表情を浮かべている。	金勝	13
107	石造遺 品・石 仏	茶沸観音	金勝寺から狛坂へ通じる山頂の尾根道にある。仏龕形(ぶつがんけい)に彫られ、道標としての石仏でもある。この石仏は来迎相の阿弥陀如来立像で、像高30cmにすぎない。長い風雪に耐えた古拙の微笑に、えもいえぬ安らぎを与えてくれる石仏である。	金勝	13
108	石造 遺品 ・石仏	不動明王丁 石	金勝山は、その守護神春日神社からは50町の距離にあるとされる。その一町ごとに「丁石」を立てて、参詣人の目安としたが、今もそのいくつかが残っている。 金勝山登り道「龍王参道」にある自然石に彫られた「不動明王丁石」は、その右方に「二十九丁」とある。	金勝	13
109	遺跡	永福寺遺跡	寺院跡。伝承地。	金勝	13
110	遺跡	正徳寺遺跡	古墳。石棺(水盤か)。	金勝	13
111	遺跡	狛坂寺遺跡	寺院跡。白鳳～近世。山腹。磨崖仏・瓦。	金勝	13
112	遺跡	金勝寺遺跡	寺院跡。平安～中世。礎石建物。	金勝	13
113	遺跡	美濃郷遺跡	散布地。弥生式土器。	金勝	13
114	遺跡	春日社古墳 群	古墳。古墳時代。丘陵。円墳数基、横穴式石室。	金勝	13
115	史跡	こまさかまがいぶつ 狛坂磨崖仏	高さ6.3m、幅4.5mの花崗岩に本尊の如来像と、脇持に菩薩像を刻みだした大磨崖仏で、わが国の石造美術の中で第一級の折紙がつけられている。その造立年代も奈良時代前半に遡る可能性もあると言われ、今も千古の謎を秘めるもので、国の史跡に指定されている。 	金勝	13
116	史跡	りゅうぎょうほういん 隆堯法印 ほうきょういんとう 宝篋印塔	隆堯法印は、佐々木義成の長男として生まれ、名は隆頼と称した。幼少時代に京都へ出て、漢書を学び、永和3年(1377年)比	金勝	13

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
			叡山に登り、出家して修行を積んで法印大和尚位に叙せられた。応永10年(1403年)比叡山を出て浄土教学を修め、金勝山の奥に庵を結び、浄厳坊と名づけて一向専修につとめた。また、金勝山が女人結界の地であったので、東坂に阿弥陀寺の前身となる庵を創建し、広く道俗を教化し、近江浄土宗の発展に尽くす。金勝寺大杉下に、隆堯法印宝篋印塔がある。		
117	神社	大野神社	金勝庄の惣社。金勝寺の護法神である。金勝連峰最高峰である龍王山上に社があり龍王さんを祀る。水の神として崇められ、早魃の際には、神に降雨を祈願する雨乞いが行われていた。天神さんで親しまれる菅原道真を祭る古社であり、緑に包まれた、たたずまいの中にある流麗な楼門(国指定重要文化財)は、鎌倉時代のものでは県下最古で最もすぐれたものの一つである。	金勝	13
118	神社	春日神社	金勝寺の別院、狛坂寺守護神として創建されたと伝わる社。室町時代の建築様式をよく表した表門は、国指定の重要文化財。大野神社の南に立つ。	金勝	13
119	寺	安楽寺 (美之郷)	天台宗。開基や開基年などは不詳。本尊は地藏菩薩。明治時代に現在地に移転した。金勝寺の一坊だった。	金勝	13
					
120	寺	地藏院(雨丸)	浄土宗。宝暦年間、僧了夢開基。	金勝	13
121	寺	こんしやうじ 金勝寺	奈良の都の鬼門を鎮護するため、奈良時代、聖武天皇の勅願で僧良弁が開基したといわれ、平安時代の初め、弘仁年間(810年～824年)に願安によって伽藍が整備されたと伝える湖南仏教文化の中心をなした寺で、本尊釈迦如来、虚空蔵菩薩など、数多くの重要文化財がある。静寂さに包まれた参道に浮かび上る山門と本堂の風景が心に残る。天台宗。	金勝	13
122	寺	こんたいじ 金胎寺	現在も残る阿弥陀三尊は、胎内に墨書銘を持つことでわが国でも有名。参道の楓や苔のあざやかさは、訪れる人の眼を楽しませてくれる。浄土宗。	金勝	13
					
123	寺	敬恩寺	金勝山の北に立つ。開基は不明だが、室町時代に浄土宗寺院として再興されたと伝わる。本尊の木造阿弥陀如来立像は鎌倉時代の作で、国指定の重要文化財。浄土宗。	金勝	13
					
124	寺	正徳寺	金勝山の北に位置する浄土宗の寺院。開基は不明だが、本尊の木造阿弥陀如来立像は鎌倉時代の作で、寄木造の玉眼入りである。国指定重要文化財。浄土宗。	金勝	13
					
125	寺	宝樹院	浄土宗。天正元年(1573年)僧宗圓開基。金勝寺代官三浦氏が寄進した欄間が本堂内陣にある。かつては金勝寺の寺坊の一つで	金勝	13

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
			あった。		
126	寺	成谷寺	天台宗。仁寿2年(852年)願安菩薩開基と伝える。金勝寺西坂本と言われる成谷にある。興福寺官努牒疎に記載される鳴谷寺。中世になって衰退。現在は小堂として残っている。薬師如来と地藏菩薩半迦像は平安時代後期、不動堂の不動明王は室町時代といわれる。 	金勝	13
127	寺	善福寺		金勝	13
128	遺跡	井上城跡	城跡。中世時代。平地。現状山林。土塁・堀。	金勝	14
129	遺跡	井上古墳	寺院跡。平地。現状山林。円墳・横穴式石室(全壊)。	金勝	14
130	遺跡	道久谷遺跡	集落跡。平安・鎌倉時代。平地。堀立柱建物等、土師器・黒色土器・緑釉陶器が出土。	金勝	14
131	神社	岩神さん	井上バス停前の小高い山上にあり、井上地区で護持している。巨岩に神の存在を感じる日本古来の信仰から祀られているらしい。	金勝	14
132	寺	吉祥寺	金勝谷、井上の小高い所、山を背にして建つ。この寺の本尊は吉祥天であるため、地元の人々は「天女さん」と呼んでいる。吉祥天立像の背面扉の中に、胎内仏「如意輪観音菩薩」が安置されている。	金勝	14
133	寺	三因寺	真宗大谷派。 	金勝	14
134	石造 遺品 ・石仏	阿弥陀寺・石灯籠、石造無縫塔ほか	本堂左前奥に、江戸時代に作られた巨大な五輪塔が21基も立ち並んでいる。その威容は圧倒的な迫力があり、当時の人々の祈りが感じられる。	金勝	15
135	遺跡	阿弥陀寺古墳	古墳。古墳時代。石棺2(水盤か)。	金勝	15
136	遺跡	長通遺跡	窯跡。鎌倉時代。灰原。	金勝	15
137	神社	春日神社	金勝寺の盛時に勧請され、慶長元年に社殿が改築されたい。木造の神体が二体祀られていたが、明治の神仏分離の際、焼却され現存しない。	金勝	15
138	寺	阿弥陀寺	15世紀から約1世紀の間、近江浄土教団の中心寺院として栄える。浄土宗。応永20年(1412年)僧隆堯開基。 	金勝	15

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
139	寺	宗安寺	浄土宗。天正 17 年(1589 年)僧順阿開基。阿弥陀寺末寺。阿弥陀寺の住職の一坊であったらしい。 	金勝	15
140	遺跡	観音寺遺跡	寺院跡。山頂。現状山林。天明天皇勅願寺。	金勝	16
141	神社	白山神社	金勝寺絵図に白山と記載され、観音寺の護法社として山王上七社の一つ白山姫神を勧請した。	金勝	16
142	寺	観音寺	天台宗。金勝寺二十五別院の内の一寺で、本尊は十一面観世音。本堂は阿星山にあったとされ、その後一時荒廃し、その後再興の時現地に移転したらしい。 	金勝	16
143	寺	善徳院	浄土宗。延徳元年(1489 年)常誉建阿弥陀仏開基。宝暦 6 年(1756 年)に大洪水があり、この時大規模な土砂流があったといい、この時寺が流され草創期の文書類が存在しない。 	金勝	16
144	遺跡	相坂寺遺跡	寺院跡。平地。伝承地・字名。	葉山	17
145	遺跡	金山古墳群	古墳群。古墳時代。山麓。円墳 11 基・横穴式石室、須恵器・金環等が出土。	葉山	17
146	遺跡	西蓮寺遺跡	寺院跡。山麓。伝承地。	葉山	17
147	遺跡	ジョウレン寺遺跡	寺院跡。伝承地。	葉山	17
148	遺跡	谷口遺跡	城跡。中世。館跡か。	葉山	17
149	遺跡	千本松遺跡	一里塚。近世。平地。	葉山	17
150	遺跡	小割遺跡	寺院跡か。布目瓦。	葉山	17
151	神社	岩上神社	岩神あるいは石神ともいう。巨石や巨岩に神が宿するという古代の自然信仰に由来する。もとは日向山山頂の岩の上に祀られていたが、室町時代の文明 3 年(1471 年)に兵火で焼失し、永世元年(1504 年)現在地へ移った。	葉山	17
152	石造遺跡・石仏	寿泉神社・六面石幢	伊勢落とは伊勢大路が転訛したものとわれ、かつて条里制が行われた際、栗太郡の基点一条一里はこの地から始まっている。山沿いに鎮守する寿泉神社は明治以前十禅師社と称した。天暦 7 年(953 年)栗太郡の豪族で小槻大社を祖神とする小槻宿禰が勧請したと伝える。境内には、高さ 125 cm の石幢(いしどう)がたっている。幢とは、「かざりはた」のことで、これを石でつくったため「石幢」と呼ばれている。塔身にはその六面に地藏菩薩の立像が陽刻されており、当地における六地藏信仰の様子を示している。	葉山	17
153	寺	真教寺	浄土真宗本願寺派。永徳 2 年(1490 年)僧浄願開基。享保 4 年(1719 年)木仏安置、寺号公称許可。境内とその周辺には大きな土塁や壕跡が残る。日光山山頂を物見台とする本城で、中世武士武村氏の居城跡といわれている。 	葉山	17

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
154	寺	徳生寺	浄土真宗本願寺派。寛正3年(1462年)中興。 元禄3年(1690年)木仏安置、寺号公称許可。 	葉山	17
155	石造 遺品 ・石仏	新善光寺・ 宝篋印塔	市内では一番の壮大さをもつ新善光寺に在銘塔があり、銘は弘安3年(1280年)で在銘塔では近江では2番目に古いものである。	葉山	18
156	遺跡	車塚古墳	古墳。古墳時代。平地。円墳(全壊)。	葉山	18
157	遺跡	林遺跡	集落跡。古墳～中世。平地。掘立柱建物・堅穴住居。	葉山	18
158	遺跡	多福寺遺跡	集落・寺院跡。平地。伝承地・字名。掘立柱建物	葉山	18
159	遺跡	大塚古墳	古墳。古墳時代。平地。円墳・埴輪。	葉山	18
160	遺跡	イク塚古墳	古墳。古墳時代。平地。円墳(全壊)。	葉山	18
161	寺	新善光寺	鎌倉時代に小松左衛門尉宗定が平家追悼のために、信濃善光寺へ四十八度の参詣をして、善光寺如来の分身を安置したことに始まる。春秋の彼岸には縁日がたちにぎわう。重要文化財の阿弥陀如来像は、来迎印を結ぶ立像。浄土宗。 	葉山	18
162	寺	長徳寺	浄土真宗本願寺派。永正16年(1519年)僧正雲開基。正雲が本願寺実如から方便法身像を与えられ高野郷祝塚に一道場を建てたのが始まりという。寺地はその後三度移転し現在地になった。寛文9年(1669年)木仏安置、寺号公称許可。本尊阿弥陀如来は金勝寺二十五別院高野四ヶ寺の一寺院の遺像とされている。	葉山	18
163	寺	薬師堂	長徳寺の門の傍らに建つ。本尊は薬師如来。金勝寺二十五別院高野四ヶ寺の一寺院の内の多福寺の伝来仏といわれ、多福寺薬師と呼ばれている。毎年2月8日薬師講が行われ、コボウを主な食材とする料理を当番が作り、すべての村人がこれを食べるといふ行事が伝えられている。ゴボウ講ともいわれる。	葉山	18
164	遺跡	唯心教寺遺跡	寺院跡。山頂。伝承地、字名。	葉山	19
165	遺跡	日向山古墳群	古墳群。古墳時代。山腹。円墳・横穴式石室。	葉山	19
166	遺跡	日向山古墳	6世紀頃の古墳(円墳)で完全な横穴式石室が残されている。	葉山	19
167	遺跡	岡山古墳	古墳。古墳時代。円墳、銅鏡2面出土	葉山	19
168	遺跡	堂山古墳群	古墳群。古墳時代。円墳3基か。	葉山	19
169	遺跡	六地藏城跡	城跡。平地。伝承地、字名。	葉山	19
170	遺跡	北尾遺跡	集落跡。中世。	葉山	19
171	遺跡	多喜山城	戦国時代。日向山頂上にあり、土塁・曲輪面などの城郭遺構が残っている。織田系の武将が築いたと推測されている。 	葉山	19

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
172	史跡	旧和中散本舗 (大角家住宅)	「和中散本舗ぜさい」として江戸時代、全国的に知らされた薬の老舗。東海道の間の本陣(六地藏梅ノ木立場)としての役目も果し、重要文化財の店舗や座敷、製薬場など、近世初頭の商業建築としてはわが国唯一の遺構である。幕末には有名なドイツ人医師シーボルトも訪れている。平成 22(2010)年度には景観まちづくりの取組みの中でぜさいや看板のレプリカを市民参画による 1000 人彫りにより復刻、同年開催された第 3 回堂々りっとう景観記念日にてお披露目された。平成 26(2014)年度からは素晴らしい建物の良さを多くの人に知ってもらおうと NPO 団体による月 1 回の定期開場の取組みが行われている。 	葉山	19
173	史跡	製薬摺機 (大角家住宅)	大角家住宅の「ミセ」は、間口 10 間余・奥行 3 間あり、中央の土間をはさんで「東ミセ」と「西ミセ」に分けられている。製薬摺機は、「西ミセ」にあり、大車・万力車・石臼の 3 部からなり、薬草をこまかく摺るため使われた。天保 2 年(1831 年)2 月、車大工湯三宅仁兵衛により新調された。	葉山	19
174	史跡	旧和中散本舗庭園	江戸時代中期の池泉観賞式庭園で、中央に中島のある池の対岸に築山をつくり、さらに背後の日向山を借景とし、右奥に滝石組を組み、小規模ながらすばらしい庭である。国指定名勝。 	葉山	19
175	寺	法界寺	今は、古びた小山門と真新しい小堂のみしか残っていないが、かつては多喜山下の僧仁秀によって開基された陀羅尼寺の跡ではないかと言われ、その寺の本尊六軀の地藏菩薩の一軀が、今、重要文化財に指定されているこのお地藏さんだと信じられている。金勝寺二十五別院の一つ、阿羅尼寺の後継寺院とされる。曹洞宗。	葉山	19
176	寺	高念寺	真宗大谷派。宝徳 3 年(1451 年)僧道順開基。 	葉山	19
177	寺	浄玖寺	浄土宗。天正 10 年(1582 年)僧定休開基。寛永 115 年(1638 年)堂を建て浄玖寺と号した。	葉山	19
178	寺	福正寺	真宗大谷派。寛正 2 年(1461 年)僧正善開基。金勝寺二十五別院の一つ、唯心教寺の後継寺院とされる。高野郷一円の一方向一揆の中心寺院であった。織田信長は一方向一揆に手を焼き、重臣の佐久間信盛を多喜山城に入れて鎮圧に当たった。現在地は高野氏の館跡といわれ一の丸、二の丸の区画があり、二の丸跡に寺地がある。本尊の阿弥陀如来は三井寺の古像が安置された。 	葉山	19

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区	
179	遺跡	小野遺跡	集落跡。古墳～中世。平地。堅穴住居、溝、ピット。	葉山	20	
180	遺跡	佐世川古墳群	古墳群。古墳時代。丘陵。円墳か。	葉山	20	
181	遺跡	佐世川古墳	古墳。古墳時代。丘陵。円墳で鉄剣・鉄刀・埴輪が出土	葉山	20	
182	遺跡	佐世川遺跡	散布地。弥生時代。丘陵。	葉山	20	
183	遺跡	小野遺跡	集落跡。古墳～中世時代。平地。現状は水田。堅穴住居、溝、ピット。	葉山	20	
184	遺跡	佐世川古墳群	古墳群。古墳時代。丘陵。現状山林。円墳。	葉山	20	
185	遺跡	佐世川古墳	古墳。古墳時代。丘陵。現状山林。円墳・鉄剣・鉄刀・埴輪。	葉山	20	
186	遺跡	佐世川遺跡	散布地。弥生時代。丘陵。現状山林。弥生式土器。	葉山	20	
187	遺跡	谷田古墳	古墳。古墳時代。山頂。現状山林。円墳(全壊)・横穴式石室・須恵器。	葉山	20	
188	遺跡	石場山遺跡	散布地。丘陵。現状山林。須恵器。	葉山	20	
189	神社	白鬚神社	承和2年(835年)金勝寺別院として小野寺が開基された時、僧安交が小野寺の護法社として勧請した。三十番神は、一ヶ月30日間を30の神祇にあてはめ日々の守護神としたもので、法華経守護としての信仰が最もよく普及している。この三十番神は画面下部に勾欄を描き、全体を社殿にみたてて描かれている。裏には作成当時の関係者を列記しており、重要な歴史資料ともなっている。(現物は、栗東歴史民俗博物館に寄託している)		葉山	20
190	寺	万年寺	黄檗宗。小野寺跡に天和3年(1683年)禅僧祐堂が来往し、万年寺と号したことに始まる。本尊の聖観音菩薩立像は聖徳太子が栗の木を掘ったものと伝承され、本尊前立の聖観音立像は鎌倉時代の作で、境内の宝篋印塔は鎌倉時代のもの。当寺には伝統行事として観音講が伝承されている。		葉山	20
191	寺	光円寺	真宗大谷派。明応元年(1492年)僧幸圓開基。元禄2年(1689年)に現地に移り、文化3年(1806年)本堂を再建した。		葉山	20

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
192	寺	西巖寺	真宗大谷派。天和3年(1683年)僧秀岳開基。当寺の鐘は辻村の鋳物師太田西兵衛が宝暦9年(1759年)鑄造したものを明治13年(1880年)改鑄した。東海道に面する当寺の境内に「肩替えの松」がある。江戸時代には人足達がこの松の下で休憩し、荷物を担う肩を替えたことからこの名が出たという。 	葉山	20
193	石造 遺品 ・石仏	清久寺・宝篋印塔	花崗岩製で基礎及び相輪を欠いている。塔身は金剛界四仏であるが一面が像容で他はすべて月輪内に梵字となっている。鎌倉末期の作。	葉山	21
194	遺跡	大西館遺跡	館跡。平地。大西市右衛門屋敷伝承地。	葉山	21
195	遺跡	手原遺跡	手原周辺には栗太郡主条里とは異なる正南北の地割が遺存しており、奈良時代の寺院跡、奈良～平安時代の栗太郡衙の可能性のある官衙遺構(古代の役所)とそれらに関連する多数の出土資料が発見されている。	葉山	21
196	神社	里中稲荷大明神 (笠松の宮)	稲荷神社は手原の里内(里中)氏の「家運擁護之神」として始まったが、文明3年(1471年)から手原村の産土神として四月の最初の午の日に祭礼を行うようになったという。	葉山	21
197	神社	天満宮(手原)	昔は天つ神が祭神であったが、近世に菅原道真に変化した。古来祈雨の神として崇敬された。西向き天神とも言われる。	葉山	21
198	寺	真慶寺	浄土宗。本尊の阿弥陀如来像は仏師、春日の作と伝える。地蔵菩薩立像は弘法大師の作という。寺伝では、もとは栗本寺という大きな寺であったと伝える。中興の大西大和守は近江源氏佐々木承禎に仕えた当地出身の武士。 	葉山	21
199	寺	円徳寺	浄土真宗本願寺派。享徳2年(1453年)僧真覚開基。真覚は手原氏で、早くから本願寺蓮如から教化を受け、安養寺の浄性と共に蓮如の高弟となった。蓮如は応仁の乱を避けて当道場に留まっている。この時、蓮如から自筆の三帖和讃を手原道場の付物として与えられ、当寺の宝物となっている。 	葉山	21
200	寺	清久寺	浄土宗。大永2年(1522年)僧定證開山、宮城山城守開基。宮城氏は近江守護佐々木氏の将で、佐々木氏の後は、織田、豊臣、徳川の各氏に仕えた。当時は宮城氏の菩提寺である。	葉山	21
201	寺	行者堂(手原)	文政4年(1821年)開基。本尊役行者。当村の先達里内九兵衛が、大和国で役行者像を譲り受け背負って帰ったのが始まりと伝え、譲り状が伝存する。	葉山	21
202	神社	三輪神社の どじょうすし 鱈鮓	「Ⅲ. 芸能・文学(祭)」のテーマに掲載。 	葉山	22

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
203	寺	慶崇寺	浄土真宗本願寺派、霊英山慶崇寺の開祖は「道空」と伝えられている。もと天台宗で、真宗への改宗は、この道空から八代後の「義壽」の代になって、本願寺第八代蓮如宗主が享徳2年～文明2年(1453年～1470年)にかけて手原道場・安養寺の孝子坊道場へ巡錫されたとき、勸化を受け法名「了俊」を賜ったことに始まる。 浄土真宗本願寺派。 	葉山	22
204	寺	薬師堂(大橋)	三輪神社の西隣にある宝形造りの堂で、良弁大僧正の作と言われている。元をただと金勝寺25別院の一つ「大橋寺」が前身ではないかと推測されている。 現在の建物は昭和15年(1940年)に改築されたものであり、毎年一月と八月八日には、慶崇寺門徒総代が中心になってお勤めが続けられている。	葉山	22
205	石造 遺品 ・石仏	出庭神社・ 宝塔	総高3mの宝塔。火災により大きく損傷を受けている。鎌倉時代。	葉山	23
206	遺跡	大乘寺遺跡	寺院跡。平地。伝承地。	葉山	23
207	遺跡	出庭古墳群	古墳群。古墳時代。平地。埋没古墳(方墳・前方後円墳)	葉山	23
208	遺跡	亀塚古墳	古墳。古墳時代。平地。円墳または前方後円墳で鏡(仿製三角縁神獸鏡)1・鉄刀1・土器などが出土	葉山	23
209	神社	出庭神社 (餅搗き祭り)	「Ⅲ. 芸能・文学(祭)」のテーマに掲載。 	葉山	23
210	神社	てんまんじんじや 天満神社 (出庭宅屋)	辻の天満宮同様、井水に関する神社とされるが詳細は不明。祭神は菅原道真。勧請年代不詳。 	葉山	23
211	神社	てんまんじんじや 天満神社 (出庭中)	寛治6年(1092年)勧請と伝える。祭神は菅原道真。辻の井口天神社同様井水守護のため勧請された。別に井口天神といわれ梵鐘銘文にも記される。 	葉山	23
212	寺	従縁寺	浄土宗。天文年中(1532年～1555年)草創、開山は覚心ともいう。金勝寺二十五別院の一つ大乘寺が応仁の乱で焼失後、本尊の観音を小堂に安置してあったのを正徳2年(1712年)、桂然が現在地で再建し現寺号を称した。十郷井の刻水の合図は、当寺の鐘によって行うことが定められていた。 	葉山	23

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
213	寺	西光寺	真宗大谷派。文明 17 年(1485 年)僧慶宣開基。慶宣は、太田左近大夫宣幸と称した。本願寺蓮如に従い僧となり、道場を建てたのが当寺の始まりである。慶長 7 年(1602 年)本願寺分立の時、東本願寺末となる。寛永 7 年(1630 年)木仏安置、寺号公称許可。 	葉山	23
214	寺	松寿寺	承応 2 年(1653 年)建立。僧欣西開基。正寿寺とも記す。阿弥陀寺末の小庵。膳所藩に仕えた遠藤氏の持庵といわれる。	葉山	23
215	寺	法香寺(中)	真宗大谷派。祐慶が本願寺実如に帰依し大永 4 年(1524 年)に道場を開いたのに始まる。慶長 13 年(1608 年)木仏安置、寺号公称許可。 	葉山	23
216	寺	最勝寺(中)	浄土真宗本願寺派。寛文 5 年(1665 年)法香寺門徒が分立して道場を開いたことに始まる。延宝 9 年(1681 年)木仏安置、寺号公称許可。 	葉山	23
217	寺	明受寺(宅屋)	真宗大谷派。天正 11 年(1583 年)出庭中の法香寺の祐誓の弟祐教が道場を開き開基したのに始まる。文化 3 年(1806 年)寺域を拡張し、本堂を改築した。 	葉山	23
218	遺跡	辻遺跡	古墳。古墳時代。平地。県内でも有数の集落跡。竪穴住居・掘立柱建物・土壙墓・古墳。	葉山	24
219	神社	いくち 井口 じんじゃ 神社	社記によれば、「寛治 6 年(1092 年)出庭介橋宣幸この地を開墾、野洲川の水を引き、井水の守護神(象比売神)として井口天神社と称す。また永生 3 年(1506 年)井水拡張のおり、奉行久保石見守義慶・小坂信濃守信基等が菅原道真公の霊を勧請し、合祀(天満宮)とする。云々」とある。鑄銅製の鳥居は他ではあまり見られない貴重なもので、江戸時代、全国に名声を誇った辻の鑄物師の姿がうかがわれる。 	葉山	24
220	寺	薬師堂(辻)	天台眞盛宗。本尊の薬師如来は天台宗の慈覚大師の門弟安然和尚の自刻と伝える。江戸時代に当村に安置され、明治 17 年(1884 年)本堂を建立し中興した。	葉山	24

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
221	寺	正覚寺	縁起には、「元来天台の宗流にて云々」に始まり、「蓮如上人の御勸化により浄土真宗に帰依す于時永正十四年(1517年)正月」に改宗されたと記録されている。浄土真宗本願寺派。 	葉山	24
222	寺	圓超寺	元々、天台宗の八王子院があり、住侶・教哲が金ヶ森に詣り、永正五年(1508年)、別庵を営んだのが、円超寺の創建であると伝えられている。浄土真宗本願寺派。 	葉山	24
223	石造 遺品 ・石仏	高野神社・ 石灯籠	鎌倉時代と考えられる石灯籠で国認定の重要美術品。花崗岩製で、高さはおよそ2.4mの堂々たるもの。	葉山	25
224	石造 遺品 ・石仏	松源院・石 造宝塔	花崗岩製の大きい宝塔で、塔身、笠部の保存は良好、鎌倉後期の作品。現在の基礎は当時のものではなく後補のものと思われる。	葉山	25
225	石造 遺品 ・石仏	松源院・阿 弥陀石仏	蓮弁の上に阿弥陀如来の座像を安置している。	葉山	25
226	遺跡	岩畑遺跡	集落跡・墓地。古墳～近世。平地。県内でも有数の古墳時代の集落遺跡。竪穴住居・堀立柱建物・方形周溝墓・土墳墓。	葉山	25
227	遺跡	高野遺跡	集落跡・墓地。古墳～近世。平地。県内でも有数の古墳時代の集落遺跡。竪穴住居・堀立柱建物・方形周溝墓。土墳墓。	葉山	25
228	神社	高野神社	もともと高野の郷は和銅年間に近江の鑄銭司として和銅開珎の鑄造にあたったという高野道経ら一族が住んだ所で、当地一帯の開発を手がけたと伝えられている。そうした人々が祖先を祀ったのが高野神社であり、延喜式の式内社である。本殿の前にある石燈籠は、鎌倉時代の作で、国の重要美術品となっている。 	葉山	25
229	寺	行蔵寺(土)	真宗大谷派。天文20年(1551年)僧了尊開基。もとは天台宗寺院であったものを真宗寺院に改め、慶長7年(1597年)の本願寺分立の時教如に従い東本願寺に属した。文化6年(1809年)金森の因宗寺から慧良が入寺し、本堂を再建して現寺号を公称した。 	葉山	25
230	寺	長久寺(今 里)	真宗大谷派。文亀元年(1501年)僧法善開基。法善は足利氏に従った武士で、竹村出雲守重厚と称した。「鉤の陣」に従軍し、陣の終結後は当地に定住したと言われる。寛文年間(1661年～1673年)に木仏安置、寺号公称許可。 	葉山	25

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
231	寺	松源院(小坂)	真言宗。文亀元年(1501年)僧祐沙開基。高野神社二の宮、三の宮の本地仏である十一面観音像、地藏菩薩像、弁財天像と境内毘沙門堂の本尊毘沙門天像を安置する。高野神社の別当寺で青葉山普門寺と称した。 	葉山	25
232	石造 遺品 ・石仏	蜂屋の石仏	蜂屋のほぼ中央、西法寺前の中ノ井川之路肩に、高さ150cm、幅80cmの小さな石仏がある。詳しいことは何もわかっていないが、かつては中ノ井川の中に埋まっていたという。 仁治2年(1241年)10月15日造立の銘があり、「寄進堅井温田二条八里二坪二段三条七里八坪一段願阿弥陀仏」という銘が刻まれている。」	大宝	26
233	遺跡	蜂屋遺跡	集落跡・寺院跡。古墳～中世。平地。井戸・溝・堀立柱建物。	大宝	26
234	遺跡	ムネ寺遺跡	寺院跡。平地。伝承地。	大宝	26
235	遺跡	仏法寺遺跡	寺院跡。平地。伝承地。	大宝	26
236	遺跡	ボンシャク 寺遺跡	寺院跡。平地。伝承地。	大宝	26
237	遺跡	タイコウ寺 遺跡	寺院跡。平地。伝承地。	大宝	26
238	遺跡	赤子塚古墳	古墳。古墳時代。平地。字名。	大宝	26
239	遺跡	永久寺遺跡	寺院跡。平地。伝承寺。	大宝	26
240	神社	宇和宮神社	蜂屋という地名は、大昔この地が養蜂地であったところから名づけられたという。この地には、金勝寺の別院でもある蜂屋寺があった。この蜂屋寺の守護神が勝部物部神、宇賀魂神、即ち宇和宮神社である。社伝では養老元年(717年)玉岡宿弥の勧請だとあり、祭神は稲倉魂命(うかのみたま)である。本殿は、室町期の代表的社殿として国の重要文化財に指定されている。	大宝	26
241	寺	永久寺	真宗大谷派。天平4年(732年)行基菩薩の開基。金勝寺二十五別院の蜂屋寺の継承寺院とされる。本願寺蓮如に帰依し真宗に転宗した。慶長12(1607年)木仏を安置し、寺号公称許可。享保3年(1718年)失火による村内の火災で本堂以下すべてが類焼した。同9年(1724年)再建。 	大宝	26
242	寺	西方寺	浄土宗。元禄4年(1662年)僧実誉開基。 	大宝	26
243	寺	蜂屋毘沙門 堂	会議所に隣接する小堂で、本尊は毘沙門天。本尊は金勝寺仏教文化圏に位置づけられる優れた像で、近世初期まで存続したと言われる蜂屋寺の遺像と推定されている。	大宝	26
244	寺	行者堂(蜂 屋)	室町時代の不動明王像と江戸時代末期の役行者像を安置する。由来諸によれば、天保14年(1843年)秋に杉江村の仮堂に安置されていたものを遷座した。	大宝	26
245	遺跡	野尻・伊勢 遺跡	集落跡・墓地。縄文～近世。平地。方形周溝墓・堀立柱建物・竪穴住居・溝・井戸。	大宝	27
246	神社	日吉神社	鎮座年代は定かでないが、祭神は大山昨命で、明治維新以前は十	大宝	27

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
		(野尻)	禪師権現と称し坂本日吉七社の中の十禪師社を分祀した社と伝えられている。		
247	寺	安楽寺	永禄2年(1559年)、浄土真宗本願寺派として開基され、開祖は僧正永と記録されている。その後、慶安2年(1649年)木佛を安置し、安楽寺の寺号公称を許される。 	大宝	27
248	寺	観音堂(野尻)	聖観音像を安置。	大宝	27
249	石造 遺品 ・石仏	仏眼寺・宝篋印塔	上部4段で4段目が140cmと大きく、他の3段は45センチである。仏眼寺は以前に火事があり、再建の際に基礎の部分に石塔の一部分が転用された。	大宝	28
250	遺跡	縄遺跡	集落跡・墓地。弥生～中世。平地。方形周溝墓・堀立柱建物。	大宝	28
251	史跡	大宝神社芭蕉句碑	「へそむらの麦まだ青し春のくれ」と、芭蕉がこの地、縄村を詠んだ句碑が鳥居左手に建っている。	大宝	28
252	神社	<small>だいほうじんじや</small> 大宝神社	大宝年間の創建と言われ、中世より旧栗太郡50余郷の広い範囲の集落の氏子により支えられてきた総社として堂々たる風格をもつ。広い参道の左手に立派な四脚門があり、本殿内にある狛犬と境内社追来神社本殿は、いずれも重要文化財。 また当社は桜の名所でもあり、春ともなれば多くの花見客でにぎわう。 	大宝	28
253	寺	西琳寺	真宗大谷派。もとは妙香坊という禅刹であったが、寛正(1464年)本願寺蓮如から十字名号を与えられた。裏書に縄村惣道場とある。一向宗の当地方の拠点となっていた。 	大宝	28
254	寺	仏眼寺	時宗。もとは天台宗で神宮寺と称した。大宝神社の神宮寺であったが仲運が応永19年(1412年)仏眼寺と改め時宗に転宗した。本尊は阿弥陀如来で、伝承によればこの仏様の眼光は寺中を照らしたため、村人は恐れをなし、金勝寺の僧に加持祈禱をしてもらったこと、おさまったことで仏眼寺の名が付いたという。 	大宝	28
255	寺	本覚寺	浄土真宗本願寺派。永正12年(1515年)本願寺実如から方便法身尊像を受け、草堂に安置したことに始まる。寛永10年(1633年)木仏安置、寺号公称許可。 	大宝	28
256	寺	薬師堂	大宝神社の本地仏である薬師如来と境内の護摩堂の本尊である不動明王を安置していた。現在は会議所へ移して祀られている。	大宝	28

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
257	神社	唐崎神社	祭神は、於母陀琉神 惶根命(オモダルノカミ、カシコネノミコト)。	大宝	29
258	神社	八幡神社 (荊原)	祭神は応神天皇、大宝神社のお旅所を兼ねる。	大宝	29
259	寺	正林寺	真宗大谷派。もとは天台寺院であった。畠山氏の教円が本願寺澄如から方便法身尊像を受け真宗道場とした。万治3年(1660年)木仏安置、寺号公称許可。 	大宝	29
260	遺跡	笠川城跡	城跡。平地。伝承地。	大宝	30
261	神社	稲荷神社 (笠川)	祭神は稲倉魂命、明治元年(1868年)勧請。	大宝	30
262	神社	さえのかみやしろ 賽神社	祭神は八衢比古神、八衢比女神。社名は「さえ」と読み、祭神は「やちまた」と読む。	大宝	31
263	神社	ひるこじんじや 蛭子神社	祭神は蛭子命。社名はヒルコ又はエビスと読む。明治以前は信濃堂と称した。「しなんど」は、科戸で風神を級長戸辺命と言われることから、当社は風神とされる。比叡、比良風が強いことから、この辺りは風神を祭神とする神社が集中する。境内の入口の鳥居横に風除石という一対の巨石があり、風まつりにちなむものらしい。境内の東北隅に霊地と言われる禁足地がある。大宝神社の旧祓所又は現在地に移る前の社地であったらしい。	大宝	31
264	寺	浄覚寺	浄土真宗本願寺派。天正年間僧玄智開基。元和元年(1615年)の太子七高僧図が最古の物。元禄14年(1701年)木仏安置、寺号公称許可。 	大宝	31
265	石造 遺品 ・石仏	正楽寺・石 造宝塔	地上より120cmほどの石積の上に34cm×88cmの石を乗せ、その上に完全な花崗岩製の塔が乗っている。鎌倉後期の作。	大宝	32
266	遺跡	霊仙寺遺跡	雲仙寺。集落跡・墓跡。縄文～中世。平地。沼沢地・方形周溝墓・堀立柱建物・流路・土壇・溝。	大宝	32
267	神社	八幡宮 (霊仙寺)	祭神は応神天皇。	大宝	32
268	寺	金乗寺	真宗大谷派。寺伝によれば、もとは天台宗の寺院であったが、慶長13年(1608年)僧全順が本願寺教如から本尊を授与され真宗寺院となった。 	大宝	32
269	寺	称名寺	浄土真宗本願寺派。慶長10年(1605年)僧順信開基。寛永13年(1636年)、木仏安置、寺号公称許可。 	大宝	32

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
270	寺	正楽寺	真言宗山階寺派。かつては守山市山賀にあったが、元亀の兵乱で焼失して仮堂であったのを、享保 18 年(1733 年)僧実愿が当地に移した。寛永 2 年(1625 年)勸修寺宮法親王が下付された山号額にもその来歴が記されている。本尊阿弥陀三尊像は平安時代後期のものとされている。 	大宝	32
271	寺	毘沙門堂 (霊仙寺)	毘沙門天像は平安時代後期のものとされている。	大宝	32
272	遺跡	北中小路遺跡	散布地。平地。	大宝	33
273	遺跡	笠川屋敷跡	城跡。平地。伝承地。	大宝	33
274	神社	正八幡神社 (北中小路)	祭神は応神天皇。	大宝	33
275	寺	円光寺	黄檗宗。もとは最澄の開基と伝える天台宗の名刹で順光坊と称した。天正年間(1573 年～1592 年)に兵火で焼失、本尊の薬師如来と虚空蔵菩薩は難を逃れた。万治元年(1658 年)に黄檗宗の僧天州が入寺し中興した。 	大宝	33
276	寺	真行寺	浄土真宗本願寺派。永享元年(1429 年)僧教伝開基。もとは霊仙寺村にあったが、宝暦 10 年(1760 年)北中小路村に移る。高田源四郎入道が蓮如に帰依し、僧円西と称して真宗に転宗した。安永 2 年(1773 年)、木仏安置、寺号公称許可。 	大宝	33
277	寺	法林寺	真宗大谷派。平治 2 年(1160 年)開基。もと天台宗の寺院であったのを天文年間(1532 年～1555 年)に佐渡坊恵教が本願寺澄如に帰依し、真宗に転宗。慶長 7 年(1602 年)本願寺分立の時、東本願寺末寺となる。延宝 5 年(1677 年)、木仏安置、寺号公称許可。 	大宝	33
278	遺跡	十里遺跡	集落跡・墓跡。弥生～中世。平地。堀立柱建物・流路・土壙墓。	大宝	34
279	神社	大將軍社 (十里)	祭神は大己貴命。寛永 4 年(1627 年)勧請。平成 12 年(2000 年)、地区の整備により現在地に移転。	大宝	34
280	神社	小安羅神社	祭神は惶根命。別名を小安良ともいう。当地はかつての安良郷で、草津市の穴村にも安羅神社がある。社伝によれば、永正 10 年(1513 年)に勧請された。	大宝	34
281	神社	八幡宮(十里)		大宝	34
282	寺	金乗寺	浄土真宗本願寺派。寛永 2 年(1625 年)開基。	大宝	34

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
283	寺	仏台寺	真宗仏光寺派。元和元年(1615年)僧教清開基。安永6年(1777年)本堂再建。 	大宝	34
284	その他	旧東海道の町並み	本市を通過する江戸時代に整備された五街道の一つ。東端は伊勢落地先から西端の新屋敷まで通じている。中でも伊勢落、林、六地藏、小野、手原の葉山エリア、目川、岡地先の治田エリアの町並みには程よく街道の風情が残されている。		
追加	石造遺跡・石仏	泣き地藏	平成25(2013)年度に栗東ふあざーず倶楽部によって参道が整備された。平成26(2014)年度に案内看板を整備。岩に彫られた仏としては、狛坂磨崖仏に次ぐほどの大きさであり、今後ますます来訪者が望まれるところである。高さ2メートル、幅5メートルの岩に3体の如来像(座高約90センチ)が彫られている。 	金勝	13
追加	史跡	目川立場	東海道 草津宿～石部宿の立場として有名。	治田	3
追加	その他	蓮台寺晩鐘	栗太八景。	治田	8
追加	その他	泉面の雪花～雪化粧の東方山安養寺	栗東八景。	治田	6
追加	その他	飛翔の羽音～秋、栗東自然観察の森	栗東八景。	治田	6
追加	寺	広徳寺	地域の歴史的な寺院。	金勝	13
追加	寺	峯の堂	地域の歴史的な寺院。	金勝	13
追加	寺	大通寺	地域の歴史的な寺院。	金勝	13
追加	その他	砥山夕照	栗太八景。	金勝	12
追加	その他	夏清の幽玄～金勝寺と森林浴の森～	栗東八景。	金勝	13
追加	その他	陽春の風光～県民の森の薫風～	栗東八景。	金勝	13
追加	その他	弘暁の駒音～早朝の栗東トレーニング・センター～	栗東八景。	金勝	11
追加	史跡	千本松(伝斎宮跡)	今は枯死しているが、もとは一本のウツクシマツの巨木がそびえており「千本松」と呼ばれ、幾つかの伝説がある。また「御祓松」ともいわれ、伊勢斎宮の禊所とも伝えられる。	葉山	17
追加	石造遺跡・	石造道標「石道印」	東海道から新善光寺へ至る道の入り口に建立された道標。『東海道分間延絵図』に描かれた「石道印」に該当すると考えられる。	葉山	18

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
	石仏				
追加	石造 遺跡・ 石仏	膳所藩私領 傍示石	花崗岩製の傍示石で、『東海道分間延絵図』にも描かれる。	葉山	18
追加	石造 遺跡・ 石仏	福正寺・石 造層塔	現存六重を数えるが、もとは七重か九重であったと考えられる、 鎌倉時代後期の石塔。市指定文化財。	葉山	19
追加	石造 遺跡・ 石仏	万年寺・宝 篋印塔	鎌倉時代の花崗岩製の宝篋印塔。市指定文化財。	葉山	20
追加	その他	金山暮雪・ 伊勢落晴嵐	栗太八景。	葉山	17
追加	その他	上野夜雨	栗太八景。	葉山	18
追加	その他	赤坂帰樵	栗太八景。	葉山	20
追加	その他	手原行人	栗太八景。	葉山	21
追加	その他	積日の海道 と城跡～新 緑の日向山 と和中散～	栗東八景。	葉山	18
追加	その他	彼岸の繁華 ～彼岸、木 洩れ日の新 善光寺	栗東八景。	葉山	19
追加	その他	青麦の薫風 ～初夏の大 宝神社～	栗東八景。	大宝	28
追加	石造 遺品・ 石仏	成谷寺・石 造宝燈		金勝	13
追加	史跡	薬師如来堂		葉山	19
追加	石造 遺品・ 石仏	顕彰碑		葉山	19
追加	石造 遺品・ 石仏	彰族碑		葉山	19
追加	石造 遺品・ 石仏	新善光寺道 分岐道標		葉山	19
追加	史跡	すずめ茶屋 跡		葉山	21
追加	史跡	足助風崖石 碑		大宝	28

＜Ⅲ. 芸能・文学(祭)＞

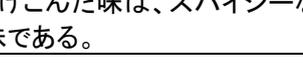
番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
1	祭	花傘踊り (小杖祭り (おづえまつり))	小槻大社の祭礼で、5月5日に行われる。6集落(岡、目川、川辺、坊袋、下戸山の一部(宮ヶ尻)、草津市山寺町)が輪番制で神事の一切を執り行い、神社へのお渡りの道中や神社境内で花傘踊りと呼ばれる風流な太鼓踊りが行われ、「小杖祭りの祭礼芸能」として県の無形民俗文化財に指定されている。 	治田	1,2,3 4,5
2	民話・ 伝承	下戸山のまんがんせき	昔から目川と小柿は下戸山に対して、お酒とあご(飛魚をほしたものを)を百枚ほど持って、一杯飲んでくださいという意味で、上り酒としてもっていった。それが終わると小柿は目川に対しても同様に持っていった。ところがその後だんだん深井戸ができ、酒を持っていかなくてもよいのではないかということになり、数十年前に廃止となった。元禄時代から水が欲しいためにやったという話である。	治田	1
3	民話・ 伝承	岡小女郎	昔、東海道のそばに岡の縄手というところがあって、大名や商人、町人や百姓などいろいろな人が通っていた。その岡に岡小女郎というたぬきが住んでおり、東海道を通る人々をだましては毎日を過ごし、みんなを困らせていた。	治田	2
4	民話・ 伝承	砂ほりばばあ (てんころやぶ)	昔から、今の治田小学校のある竹やぶを「てんころやぶ」と呼んでいた。そのやぶにてんころという、狸とイタチにも似た動物が住みついていたからである。酔っぱらいなどがごちそうを持ってやぶの近くを通りかかると、やぶの中からガサガサと音を出し、その音にびっくりしてごちそうを置いて逃げ出した。それからそのあたりでは「砂ほりばばあが住んでいる」といって恐れられたそうである。	治田	3
5	行事	大日盆	大日如来像が掘り起こされた頃から始まったのではないかと伝えられている。毎年8月26日、大日堂前に、幼児、小学生が集まり、目川地藏院の庵主さんによる法要が行われる。	治田	4
6	行事	日待	前夜から潔斎して翌朝の日の出を拝む行事。	治田	4
7	民話・ 伝承	川辺の三吉ぎつね	昔、川辺に三吉というきつねが住んでいた。おいなりさんに仕えるものとして大切にされ、死んだあとも川辺の守り神としてまつられていた。小槻大社が格式を上げる為に、おいなりさんを移したところ何年かしてお告げがあり「川辺へかえりたい」と言われたので帰してやると、「前のところではいやだ」といわれたので、お社を建ててまつりました。そこでは今でもお火たきやはつものをしている。	治田	5
8	民話・ 伝承	灰塚伝承	樹木伝承で、「東海道各所図会」には、近江の目川と梅木の間に古い栗の大樹あり、樹を伐り焼き尽くした灰で塚をつくったのが今の灰塚山であると記されている。「近江興地志略」には、灰塚山は掘るとどこまでも灰ばかりで、この灰は栗の木を焼いたものではなく人を火葬した灰塚であるという。	治田	5
9	行事	大師講(もち講)		治田	9
10	祭	菌神社例大祭	5月5日に行われる春の大祭。祭りでは、宮司による神事、神楽舞、湯立神事、神輿渡御などが行われ、供饌として「ジャコの名レズシ」が供えられる。元来この鮓は、中沢の長老六人で構成される「六人衆」の一人が作るしきたりであったが、現在は自治会によって引き継がれ、区長により毎年漬けられている。	治田	10
11	民話・ 伝承	タナバタの豆おくれ	むかし、旧の八月七日になると、子どものいる家では竹にいろいろなものを飾りつけ、縁先にお供えをした。供えるものは、豆とか芋とかで、お菓子のたぐいもないこの時代には、子どもたちは、その日が来るのが待ち遠しくてたまりませんでした。その日は、子どもたちは、「タナバタの豆おくれ」と家々をまわったそうである。	治田	4,5

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
12	行事	山入のオコ ナイ	常福寺(通称大日堂)で旧暦の正月初丑の日に行われる神事。僧侶の読経の最中に列席者が太鼓等を打ち鳴らし、この時大きな音を出すほど無病息災となり、邪気が払われると信じられており、以前はそのあまりの騒々しさに近くから苦情が来るほどであったという。	金勝	11
13	行事	山入・上田 の山の神	1月の第1土曜日に行われる神事。神体は山入が男体(オツタイ)、上田が女体(メツタイ)を作ることになっており、大野神社参道入口にある檜の神木を中心に行われる。	金勝	11
14	祭	御園太鼓 踊	鎌倉期から室町時代にかけて、京都から西国にかけて流行し、やがて全国に広がった風流踊りの系統をひくもので、華美な衣装に身をやつし、囃子や歌、掛け声で、にぎやかに踊る。 この踊りは農民の民俗芸能的色彩の濃いもので、村の諸行事の余興や大野神社などへの奉納、踊り仲間の追善や農閑期の娯楽として、随時、踊られている。	金勝	11
15	行事	上砥山の 山ノ神 (ヤマノカミ のオコナイ)	旧暦1月1日から7日におよぶ別火生活を4人の当番が勤め上げる。4人の当番宅を、それぞれカミヤド(神宿)、コシラエヤド(拵宿)、ハナソロエヤド(花揃宿)、ゲイニンヤド(芸人宿)と呼び、1週間にも及ぶ期間、当番は日ごとに、決められた準備を進め、拵宿と神宿を結家になぞらえた結婚式の模擬行為が行われる。	金勝	12
16	祭	上砥山の 太鼓踊	日吉神社に古くから伝わる太鼓踊は、かつて中秋の名月の夜、社前に赤々と輝くかがり火の下で、にぎにぎしく行われる(現在は、9月第一土曜日)。農作のお礼と来年の五穀豊穣を願って、多数の人が太鼓や舞で、17種類を踊る。 きわめて単調、素朴な踊りであるが、神への祈りをこめた敬虔な踊りである。	金勝	12
17	祭	野神神社 濁酒祭	旧暦の5月5日に上砥山川南の野神さんといわれる小高い丘で行われる。字の農家の成年男子の氏子により、稲作守護神の一つである野神の供饌として濁酒を作り、神人交歓をはかる特殊神事。 	金勝	12
18	祭	田楽踊り	上砥山の日吉大社に古くから伝わる伝統行事。毎年中秋の名月の夜に行われる。収穫を迎え五穀豊穣を神に祈る神事が、素朴な踊りとなって今に伝えられたもので、もとは15歳から30歳までの若連中と呼ばれる中から、長男だけが踊ることとなっていたが、今はそのような区別はない。農民の姿で胸に紙太鼓をつけて踊るもので、古様の農民の祈りがあらわれた踊りと言える。	金勝	12
19	祭	上砥山の 濁酒祭	旧暦の5月5日に上砥山境内野神社でおこなわれる特殊神事。字の農家の成年男子の氏子により、稲作守護神の一つである野神の供饌として濁酒を作り、神人交歓をはかる。	金勝	12
20	行事	走井のオコ ナイ	毎年1月19日に近い日曜日に行われ、地元では「権現のオコナイ」とも呼ばれる。オコナイは、「ウオー」という掛声とともに鰐口や太鼓、床に敷いた板をウルシの枝で乱打し、枝の裂け方によってその年の稲の作況を占う。	金勝	13
21	行事	成谷・小脇 の山の神	1月の第2月曜日に、2つの村が合同で行う行事で、男女2体の神体を用いて行われる。男の神体は成谷側が、女の神体は小脇側が作成し、各々に祭具・供物等が準備される。各字が谷を挟んで向かい合い、12本の矢を谷に向けて投げ付ける「ケモノオイ」が行われる。	金勝	13
22	祭	大野神社 例大祭	金勝荘の総社である大野大社で行われる祭礼。毎年5月5日に行われる。	金勝	13

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
23	行事	観音寺のオコナイ	<p>勧請縄づくり、神事と直会、勧請吊り。観音寺集落の入口に、そこが村境であることを明示し、外界からの悪疫や災厄の侵入を未然に防止するため、注連縄(大蛇の形をした大縄)を、かけ渡し祈る。オコナイの食膳に出されるくるとび等の独特の精進料理は、昔の観音寺の僧坊での僧の食事からきたもの。</p> 	金勝	16
24	祭	岩上神社祭礼(シトギ祭り)	<p>1月の第2日曜日に行われる祭礼。もともと浄土真宗真教寺講として行われていたといわれ、真教寺再建のための費用に岩上神社境内の神木を当てたために、現在では岩上神社で行われると伝えられている。シトギとは、供物の菱団子のこと。</p>	葉山	17
25	行事	薬師堂のオコナイ(ゴボウ講)	<p>金勝寺 25 別院であった多福寺の行事であったといわれ、金勝寺の修正会が民間で繰り広げられるオコナイとして今に伝えられている。薬師を本尊とする惣堂で全戸参加で行われる。本来は2月8日に行われていたが、今は11日に行われている。直会の膳に特性のタタキゴボウが出されることから、別名ゴボウ講とも称される。</p>	葉山	18
26	行事	六地藏の山の神	<p>毎年1月6日に、三宅講と呼ばれる組織によって行われ当番が決まっている。子供達は紺の法被に鉢巻姿で顔に化粧を施され、神の使いとなって祭具を祭場まで運搬する。神事が終了すると、今年の当番と次年の当番には各々に白酒がなみなみと注がれ、これを一気に飲み干すと無事に当番が引き継がれたこととなる。</p>	葉山	19
27	民話・伝承	手はらみ伝承	<p>昔、手原の人が3年ばかり家を留守にして、遠い国に旅立つことになった。この男は、美しい新妻のことが心配で仲の良い友達にあずけて護ってもらうことにした。一方、あずかった友人の男は、夜は用心のため、毎晩女の腹に手を置いて守っておりましたところ、この新妻は十月十日に、人の手を生んだということである。このことが噂となって、手原の字名になったという。</p>	葉山	21
28	祭	三輪神社 <small>どじょうずし</small> の鱧鮓	<p>毎年5月に行われる大祭では、特殊な神饌として「どじょうずし」が奉納される。このずしは、鯰(なまず)と鱧(どじょう)を飯に漬け込み、6か月以上熟れさせたずしで、「ふなずし」と作り方は似ているが、さらに原始的な形態をとどめている。大祭には「どじょうずし」のほか、大根・蕪・豆腐・豆・芋・タツク・ふかが御供の膳として奉納される。本来の祭礼は5月10日に行われていたが、今は5月3日。</p> 	葉山	22
29	祭	三輪神社お弓式神事	<p>旧暦正月17日に五穀豊穡・悪霊退散などの祈願をこめて三輪神社参道で執り行われる。弓打ちは当番と当番から見て濃い親戚、宮司によって行われ、まず宮司が1回打ち、次に両当番、当番の親戚の順に矢を射る。このオコナイの起源は詳細不明であるが、行事の日が宮中の弓打ち行事の「射礼(じゃらい)」の日と同じであることが興味深い。</p>	葉山	22
30	祭	三輪神社春期大祭	<p>5月3日に行われる春の祭礼で、全国に類をみないドジョウとナマズのナレズシが神饌として供えられる。このことから別名「鱧(ドジョウ)祭り」とも呼ばれている。</p>	葉山	22
31	祭	出庭神社春祭礼(餅搗き祭り)	<p>5月1日に行われる出庭神社の春の祭礼。村を年寄組と若衆組の二つに分け、隔年交替で、御鏡餅づくりと渡し番をつとめる。御鏡餅は、生の小豆を取り粉に使い表面にまぶしながら4重ね準備し、神社に奉納する。御鏡が完成すると、講衆が勝手に搗きと称し、当番宅に講中から届けられた餅米を1日かけて搗きあげる。このことが</p>	葉山	23

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区	
			ら餅搗き祭りの名で親しまれている。			
32	人	辻与次郎	名は実久、法名を一旦といい、辻村に生まれる。京都に出て釜師西村道仁の弟子となり三条釜座に住んだ。当時釜座には 70 名をこえる釜師がいたらしいが、その中でも最も名人と言われた。 千利休の好みに応じて、阿弥陀堂釜・丸釜・尻張釜などを創設し、天正から慶長年間にかけて数々の作品を残している。大津市聖衆迎寺の阿弥陀堂茶釜は代表作のひとつ。	葉山	24	
33	祭	だいほうじんじや 大宝神社 そうもくさい 相撲祭	10 月 18 日に近い日曜日に開催されている。北中小路と二町(ふたまち)の住民による水利権の争いを、大宝神社の神主が仲裁し、両村の子どもに相撲を取らせ、円満に仲直りさせたという、故事に由来する祭り。	大宝	28	
34	祭	大宝神社 例大祭	かつて、この地域の広い範囲で流行した疫病をしずめ、健康に暮らせるよう、神の力を授けてもらおうとしたのが始まりとされる。毎年 5 月 4 日に行われる。	大宝	28	
35	行事	左義長	小正月に行われる火祭り。各地で開催される。	共通		
36	行事	伊勢講	正月の代表的な行事。江戸時代に伊勢参りが盛んになると、各地で伊勢講が生まれ、講員が旅費を積み立てて神宮代参が行われるようになった。代参者を決める会合、くじ取り行事は会食をしながら行うので、庶民の娯楽であった。時代が変わっても、講員が集まって、心の交流を深めながらの会食は今も昔も変わらない。	共通		
37	行事	献湯祭(涼み湯)	毎年 6 月～7 月にかけて、各氏神で農事の事業として御湯を献上しながら五穀豊穡、無病息災を祈願している。	共通	—	
38	行事	百灯まつり	毎年 9 月上旬、二百十日の日に、秋の豊作を祈る農事。	共通	—	
39	民話・ 伝承	栗の木の 話	昔、栗太郡に栗の大樹が一本生えていた。木の高さは雲を突き、木の周りは五百人が手をつなぐ大きさだった。 あまりの大きさのため、木陰では日が当たらず、作物が実らなかったため、人々の訴えで帝は、武将の掃守宿禰を遣わして、この木を切ることにした。 8 分ばかり切ったところで、夜になり、明るく朝来てみると、栗の木はもとのままになっていた。こんなことが何日も続いた。それは、蔓の精が栗の木の傷口を、夜中に舐めて、治していたのである。宿禰は、さっそく蔓草を刈り払って、とうとう栗の木を切り倒すことに成功した。切られた栗の木は 7 日 7 夜焼かれ、その灰が灰塚山になったという。		共通	—
40	民話・ 伝承	早魃と雨乞い	早魃の折には、古代から習俗として山・川・境界などに龍神や水神を祭り、さかんに雨乞が行われた。雨乞は、おこもり・千駄焚き・もらい水や神をおこらせるなどの方法があり、特に近世には氏神や龍神に対して踊りを奉納し雨を乞うことが多くなった。 金勝寺八大龍王本殿で、古くから雨乞が行われた。	共通	—	
追加	祭	地藏尊		金勝	13	
追加	祭	高野神社 神輿巡業		葉山	18,19 ,25	
追加	行事	雨乞の行事		葉山	19	
追加	行事	堂の講		葉山	19	

〈Ⅳ. 食べ物・特産品〉

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区	
1	特産品	目川の田楽	岡村の人が豆腐の田楽や菜飯を売る茶店を構えたことに始まり、その茶店が目川村との境にあったため、「目川田楽」とよばれ、田楽といえば目川というほど東海道名物として広く知られたが、幕末にはすでに廃れてしまっていた。田楽茶屋として、京伊勢屋、こじま屋、元伊勢屋があった。		治田	2
2	特産品	目川瓢箪 (長ひょうたん)	草津宿に接する立場として栄えた目川で生産される目川瓢箪は、往来する旅人の必需品とされた。現在は、縁起物として珍重されている。		治田	3
3	特産品	からし漬け	近江米の米こうじに栗東産の茄子を着けこんだ味は、スパイシーな現代的な味と歴史性をマッチさせた珍味である。		金勝	12
4	特産品	こんぜみそ	無添加、天然熟成のこだわりみそ。国内産大豆 1 に対して、近江米 2 の割合で製造することが特色で、米の多い分甘口になり、塩分は 10.3% と他の米みそより低い。自然から生まれた味はさっぱりしていて、深みとコクがある。		金勝	12
5	農産物	栗東メロン	栗東メロンは、「環境に優しい」にこだわって、消費者に安心して食べていただけるよう心をこめて栽培しています。また、1 本の苗から 1 個のみを収穫することにより、おいしさが凝縮された、甘いメロンを提供しております。		複数	
6	農産物	イチジク	滋賀県のエコファーマーのこだわり、ビニールハウスの中で丁寧に防虫、防菌をし、良質の木を優しく育て、美味しい「いちじく」が作られている。果実の販売は 8 月から 10 月頃まで。糖度が高くしっとり甘い栗東いちじくを活用して、道の駅こんぜの里りっとうなどで「いちじくジャム」や「いちじくソフト」などの人気の商品として販売されている。		金勝	
7	特産品	琵琶湖ワイン	湖南アルプスの麓になだらかに広がるブドウ園は、地形がヨーロッパの自然に似て、品種も欧州系高級種のブドウが豊かに実るところとなっている。中腹にはシャトーを構えて、全ての工程を丹念に行い、風味豊かなワイン、ブランデーを産出している。		金勝	13

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
8	特産品	大納言羊かん	洋かんは古い伝統のある和菓子で、永い歴史のうちに忘れさられたであろう風味を再現し、調整したものである。 	葉山	19
9	特産品	竹炭・竹酢液	本格的な竹炭焼窯で技術的にも、素材にも極上の粋を結集し、天然の薪で孟宗竹の古竹を材料に 900℃～1000℃の高温で、じっくりと焼きあげた高級竹炭と竹のエキスが凝縮した竹酢液。	葉山	20
10	特産品	栗東あられ	近江特産の「滋賀羽二重糯」を炭火で丹念に焼き上げた手づくりあられ。 	葉山	22
11	農産物	道の駅アグリ の郷りっ とう	県道片岡栗東線に面した道の駅。農業者と消費者の交流が図れる加工・販売・体験等の機能を有した施設、地場野菜を使ったメニューを提供するレストランや駅内の加工所で加工した農産物加工品等を販売する物産品コーナーがある。 加工所では、製造過程が見学でき、体験工房にて、うどん・そば・パンの加工体験ができる。 	葉山	23
12	食文化	いもつぶし (辻)	里芋の親芋を切って、七分づきの小米と一緒に炊き込む。少し塩を入れて炊き上がったら、鍋の中で摺古木を使って芋をつぶしながらよく混ぜ、扁平球状にして竹のザルに並べる。これをホウロクで焼き、砂糖醤油をつけて食べる。晩秋から冬にかけて、よく作られた。 (「鑄物師の郷・辻の歴史」より)	葉山	24
13	特産品	栗東(くりあ づま)	灰塚山伝承をもとに栗東の名に因み、栗のまろやかな風味をいかし厳選した原料を調整した饅頭である。	葉山	24
14	特産品	善光寺うい ろ	文化年間(1804年～1818年)創業以来、七代目の現在も昔ながらの製法を守って、昔から少しも変わらぬ味で好評である。 	葉山	24
15	特産品	蜂屋こんに やく	天保11年(1840年)創業以来、昔ながらの製法で、こんにやく玉の風味を生かした蜂屋のこんにやくとして親しまれている。 	大宝	26
16	特産品	牛肉のみそ 漬	近江牛肉の最上等肉を切身にし特製の白味噌に漬込み吟味調整。風味絶佳、栄養に富み、日持ちの良い品である。	大宝	28

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
17	農産物	モモ	<p>桃の花は3月にひらきます。桃の花が散った後、大切に大きく育てた桃。虫に食べられないように、1個ずつ丁寧に袋かけをして育てます。7月～8月頃販売されます。(栗東モモ生産組合)</p> 	大宝	33
追加	特産品	サラブレッド サブレ	<p>栗東の特名産品として新たに登場した。観光案内所でも着実に売れている。 5枚入り450円。</p> 	治田	6
追加	特産品	栗東バウム	<p>栗東の特名産品として新たに登場した。観光案内所でも着実に売れている。 1個250円。5個入り1,500円。さくらバウム、大野バウムなど多彩な商品展開あり。</p> 	大宝	28
追加	特産品	へそくり manju、へ そくりパイ	<p>栗東の特名産品として新たに登場した。観光案内所でも着実に売れている。 1個200円。8個入り1箱1,800円。</p> 	大宝	28
追加	特産品	栗東のくりく り坊や	<p>栗東の特名産品として新たに登場した。観光案内所でも着実に売れている。 3枚入り。360円</p>	金勝	13
追加	特産品	栗の木の植 育		金勝	13
	特産品	栗園		金勝	16
	特産品	まるっぼ豆 腐	<p>栗東産大豆を残すことなく、まるごとパウダーにして固めた濃厚で美味しい豆腐平成13(2001)年度「優良ふるさと食品」国産農林産利用部門で(財)食品産業センター会長賞受賞</p> 	葉山	23
	農産物	いちご園		大宝	34

〈V. 生活文化〉

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区	
1	住まい	川崎家住宅	下戸山の集落は、金勝川中流域の左岸に展開する緩やかな丘陵地に形成されており、当家は丘陵地の北裾を通る道沿いにある。 主屋の桁行 17.4m(八間半)、梁間 10.1m(五間)、入母屋造草屋根の四周に椽瓦葺の庇をつけた形式で、平面は床上部分と土間部分にほぼ二分され、床上部分は八畳四室からなる整形田字型平面を一部変形した特徴的な平面形。天保 5 年(1834 年)建築と伝えられている。	治田	1	
2	水	しんぴょうしの霊水	川辺字新日吉にあり、金勝川に沿っている関係で、その伏流水が涸れることなく湧き出している。水面が浅いことから非常に汲みやすい。昔、東海道を往来する旅人や、町民などが疲れを癒すために、憩いの場として、この冷水は多くの人に重宝がられた。子どもたちも「やかん」をぶらさげて戦後しばらくは、飲料水としてこの水を汲みに行った。		治田	5
3	住まい	鶴飼重明家	代々、領主伊東氏の代官を務められていた鶴飼家には、門前にいまも当時の正札場が残っている。この門構えに魅せられて、戦後幾度となく映画のロケ地として使用され、有名な俳優さんたちもこの鶴飼家に足を運んだそうだ。建物面積 250 坪、部屋数 21、当時は下男下女が 5,6 人もいたそうだ。	金勝	15	
4	住まい	三浦家住宅	観音寺集落は、阿星山の山頂に近い谷間にある。当家は集落入口近くの道路南側に位置する。 主屋は、桁行 16m、梁間 6m の中二階建切妻造瓦葺の四周の庇をつける。平面座敷部分は 6 室構成。建築年代は江戸時代後期と推定されている。	金勝	16	
5	住まい	旧中島家住宅	旧中島家住宅はもと霊仙寺集落の東端にあった。主屋は敷地西寄りの中央に東面して建ち、周囲に小屋、便所、離れ等が建っていた。昭和 60 年(1985 年)に解体し、平成 5(1993)年度に栗東歴史民俗博物館の敷地に復元することとなった。建築年代は明治初期と推定される。この地域の典型的な民家形式であり、家の中にある土間式の庭が床上げされるまでの農家の生活の様子をうかがい知ることができる。		葉山	20
6	住まい	猪飼家長屋門	手原の猪飼家は、中世の土豪から百姓へ転身し、江戸時代も侍衆として様々の特権を有していた。また、猪飼家は旗本渡辺氏の代官を勤め、その居宅は「陣屋所」として機能した。	葉山	21	
7	技術	太田猪三郎	辻村鋳物師は、江戸深川や新潟・静岡・金沢などを第二の拠点として活躍した。江戸両国回向院の本尊や浅草浅草寺・世田谷豪徳寺の梵鐘なども、辻鋳物師の作である。猪三郎は、全国各地に継承されてきた辻鋳物師の優秀な技術を結集し、銃砲から鍋釜に至るあらゆる鋳工品を生み出す一方、その成果を日本の鋳物技術としてまとめ、海外や後世に伝えた。鋳物の製作過程を絵図で示した「鋳物執業之図」は貴重な技術資料である。	葉山	24	
8	技術	つじむら 辻村 いもじ 鋳物師	辻村では野洲川の砂を利用して鋳物(釣鐘、鍋、釜)がさかんにつくられ、「辻村の鍋釜」として全国的に名声を博した。辻村の鋳物師は、ただ本拠地で鋳物を吹き販売しただけでなく、全国各地(江戸深川外 24 か所)へ店を出して発展していった。辻の天満宮の現在の鳥居は鋳物製である。	葉山	24	
追加	住まい	川崎睦男家	いずれも栗東市を代表する民家建築。国登録文化財。	葉山	21	

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
		住宅・川崎 光雄住宅・ 里内家住宅			
追加	住まい	西田家住宅	栗東市を代表する民家建築。国登録有形文化財。	大宝	28
追加	住まい	するが屋邸 宅跡		葉山	19
追加	住まい	やたべ邸宅 跡		葉山	19
追加	住まい	門・土塁・水 路のあるた たずまい		葉山	23

＜VI. 遊び＞

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区	
1		ジャパンエースゴルフ倶楽部	滋賀・栗東の里、鶏冠山を背景に全長 6880 ヤードの落ち着いた気品漂うコース。オーソドックスなコースレイアウトのなかにも、微妙なアンジュレーションをきかせたフェアウェイや、戦略的に魅力あふれるホールが広がっている。	治田	1	
2		琵琶湖カントリー倶楽部	昭和 34 年(1959 年)11 月、滋賀県初のゴルフ場として 9 ホールで開場。翌 35 年(1960 年)に 18 ホール完成。昭和 43 年(1968 年)、9 ホールを増設、27 ホールとなる。 昭和 60 年(1985 年)日本女子プロトーナメントを 3 年連続で開催。平成 5 年(1993 年)日本オープンゴルフ選手権大会、11 年(1999 年)日本女子プロゴルフ選手権大会を開催。日本鳥類保護連盟「愛鳥ゴルフコース 100 選」選定コース。	金勝	11	
3		滋賀日産リーフの森(県民の森)	昭和 50 年(1975 年)5 月に、昭和天皇・香淳皇后両陛下をお迎えして、開催された第 26 回全国植樹祭会場跡地。天皇陛下は「ヒノキ」、皇后陛下は「モミジ」を植樹され、みどり豊かな公園、琵琶湖を一望できる景観の地として親しまれている。現在の県民の森の名称は滋賀県と企業との契約によりネーミングライツ第 1 号として平成 26(2014)年度から 5 年間「滋賀日産リーフの森(県民の森)」として認定されたものである。		金勝	13
4		道の駅こんぜの里りっとう	金勝寺や狛坂磨崖仏などがある緑と歴史の里の拠点となるのが、「道の駅こんぜの里りっとう」。全国植樹祭跡地にある滋賀日産リーフの森(県民の森)に隣接しており、広場で遊ぶ人や金勝山をハイキングされる方などの憩いの場を提供している。道の駅の売店では、金勝の地元でその日に取れた新鮮な野菜や果物をお買い得なお値段で販売している。		金勝	13
5		こんぜの里・バンガロー村	まちなかを離れ、普段と異なる自然空間の体験ができるこんぜの里 バンガロー村。ヨーロッパ風のお洒落なログハウス 9 棟は、すべてキッチン、バス、トイレ、冷暖房完備のコンドミニウム式。キャンプワールドも含めて大自然を思い切り満喫できる。		金勝	13
6		こんぜの里・森遊館(栗東市立森林体験交流センター)	豊かな自然環境の中でしいたけ栽培や炭焼きなどができる体験交流施設。バルコニーから琵琶湖を一望、すばらしい夜景が楽しめる。バーベキューや各種鍋など食事もある。		金勝	13
7		ボーイスカウト滋賀連盟浅柄野野営場		金勝	13	
8		金勝牧場	競走馬の保養・調教施設。	金勝	14	
9		こんぜ桃源郷	仏教文化の発祥地として栄えた金勝寺の山麓の里山を活かした自然体験学校の創造を目指して、澤さんは自宅の裏山や減反の	金勝	14	

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
			田んぼを、子どもたちの体験の場にしようと有志たちと共に活動している。田植え、稲刈り、栗拾い、しいたけ取り、タケノコ刈り、炭焼き、野焼き、池で魚釣り、木の上の家づくりなど、多くの人々が自然との付き合い方を楽しみながら学びあい、この世の桃源郷にと、里山で農村文化の保存再生に取り組んでいる。		
10		太田ぶどう園（琵琶湖ワイナリー）	<p>湖南アルプスの麓になだらかに広がるブドウ園は、地形がヨーロッパの自然に似て、品種も欧州系高級種のブドウが豊かに実るところとなっている。中腹にはシャトーを構えて、全ての工程を丹念に行い、風味豊かなワイン、ブランデーを産出している。</p> 	金勝	13
追加		栗東第三児童公園（通称：たこ公園）	<p>栗東第三児童公園は、通称たこ公園とよばれ、昭和 48(1973)年度より施行された安養寺土地区画整理区域内に位置している。公園内には「たこ」を模した複合遊具が鎮座しており、そのユーモラスな風体もあり地域住民から親しみをもって「たこ公園」と呼ばれている。公園設置から 40 年以上が経過しており、昭和 40 年代に住居を構え遊び親しんだ親世代から、その子供世代まで 40 年以上の時を刻んでおり、世代を超え親しまれる造形物としての地域資源と言える。</p>	治田	6
追加		栗東第一児童公園（通称：城（しろ）公園）	<p>栗東第一児童公園は、通称城（しろ）公園とよばれ、昭和 48(1973)年度より施行された安養寺土地区画整理区域内に位置している。公園内には円墳状の白い築山の複合遊具が鎮座しており、その特色ある風体から地域住民より親しみをもって「しろ公園」と呼ばれている。公園設置から 40 年以上が経過しており、昭和 40 年代に住居を構え遊び親しんだ親世代から、その子供・孫世代まで世代を超え親しまれる造形物としての地域資源と言える。</p> 	治田	6
追加		ふれあい公園（通称：なまず公園）	<p>ふれあい公園は、通称「なまず公園」とよばれ、平成 14(2002)年度竣工した小規模住宅地区改良事業にて築造され美里地区に位置している。公園内には「なまず」を模した複合遊具が鎮座しており、そのユーモラスな風体もあり地域住民から親しみをもって「なまず公園」と呼ばれている。親水のまちづくりから生まれたこの公園は、湧き水による「せせらぎ空間」もあり市民に親しまれる造形物としての地域資源と言える。</p>	大宝	34
追加		大宝公園	<p>大宝公園は、昭和 52 年(1977 年)1 月 26 日に事業認可をうけ、国庫事業として、昭和 51 年(1976 年)～54 年(1979 年)の 4 年間で整備をした近隣公園であり、その敷地は、大宝神社の鎮守の森と一体化しており市民の憩い・癒しの空間として親しまれている。春は桜、夏は緑、秋は紅葉、冬は静寂といった四季折々の表情を見せ、自然の移ろいを感じられる自然豊かな公園としての地域資源である。</p>	大宝	28
追加		高野公園	<p>高野公園は、昭和 52 年(1977 年)1 月 26 日に事業認可をうけ、国庫事業として、昭和 51 年(1976 年)～54 年(1979 年)の 4 年間で整備をした近隣公園であり、その敷地は、高野神社の鎮守の森と一体化しており市民の憩い・癒しの空間として親しまれている。春は桜、夏は緑、秋は紅葉、冬は静寂といった四季折々の表情を見せ、自然の移ろいを感じられる自然豊かな公園としての地域資源である。</p>	葉山	25

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
追加		SL公園	<p>SL公園は、手原稻荷神社に併設された公園で、東海道草津線の電化に伴い廃車となった蒸気機関車を展示する公園である。展示する蒸気機関車は、昭和 49 年(1974 年)2 月に当時の天王寺鉄道管理局より無償貸与されたD51403 号機で、静態保存されている。かつて日本各地で活躍した武骨で迫力のある蒸気機関車は、世代を超えた人気があり、いまでも幼児園児等の見学や、往年のマニアの来訪など訪れる人々を魅了してやまない存在である。SLの保存には、地元の手原SL同好会が手入れをされており、毎年 10 月 14 日の鉄道の日には、イベントの開催もあるなど、魅力的な地域資源である。</p> 	葉山	21

＜Ⅶ. 取組み（拠点・イベント）＞

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
1	拠点	栗東市出土文化財センター・和田古墳公園	本市には安養寺古墳群をはじめとする多くの遺跡(埋蔵文化財)が所在し、縄文時代から近世にいたる様々な時代の貴重な出土資料が数多く発見されている。 センターではこれらの資料を保存・収蔵している。 	治田	1
2	拠点	栗東自然観察の森	安養寺山の一角に昭和 63 年(1988 年)開園。市の中心部に残されたこの丘陵地は、コナラ・アカマツ林に代表される植物、昆虫、野鳥などが四季折々の風景を見せてくれる。 ネイチャーセンターを中心に探索路が整備され昆虫や野鳥、植物などの生態をわかりやすく観察できる。自然観察会も数多く行われている。 	治田	6
3	拠点	滋賀県工業技術総合センター	時代の流れに対応した工業の技術力向上を図るため、広範な分野の総合的な試験・研究・指導機関として昭和 60 年(1985 年)に設立。電子・機械・金属・化学・バイオ・デザイン・窯業 など広範な分野の研究開発機能や技術支援機能、インキュベーター機能を持った拠点施設として、また業界ニーズに対応した技術開発の推進、その成果の技術移転、新製品・新技術開発に対する相談指導、産学官のコーディネート等の総合的な産業支援に取り組んでいる。	金勝	12
4	催し	背高ひまわりコンテスト		金勝	12
5	拠点	JRA 栗東トレーニングセンター	昭和 44 年(1969 年)に完成し、150 万㎡の広大な敷地には、常時 2,000 頭の競走馬がひかえている。調教馬場や馬の診療所、プールなどがある。トレセン見学ツアー(要予約)では、調教スタンド、坂路コース等の各施設の見学や、案内車両により厩舎地区が見学できる。また、調教見学ツアー(応募)では、G1レース出走場の調教見学ができ、イベント「馬と親しむ日」が毎年開催されている。 	金勝	11
6	催し	馬に親しむ日	JRA 栗東トレーニングセンター乗馬苑にて開催。馬にふれ、馬の楽しさを知ってもらうために開かれるイベント。馬車や馬にも乗ることができ、多くの親子などの参加で賑わう。 	金勝	11
7	拠点	農業技術振興センター 花・果樹研究部	花担当では、多様なニーズに対応した生産技術の開発、温暖化対応技術の開発、省力低コスト生産技術、環境こだわり農業技術の確立に取り組んでいる。 また、果樹担当では、果実品質の向上・安定生産技術の確立、省力・軽労・早期成園化技術の開発、新品種栽培に関する試験等に取り組んでいる。	金勝	13
8	拠点	草の根農業小学校栗東校	当初は、農業、自然、生活体験学習を基調とする学校法人初等部の創設を目標として結成されたが、現在は幼児から一般成人までを対象とした生涯学習、社会教育のフィールドに軸足を置いた活動を続けている。ひとりひとりが「農場主」になり、1 年目は約 3 坪の「じぶんの畑」をつくる。スイカやカボチャやサツマイモなど広い場所を必要とする野菜やお米は、「みんなの畑(田んぼ)」でつくる。最低月	金勝	13

番号	サブ テーマ	名称	情報	地域	地区
			1 回程度参加するプログラムで、毎年、栗東と朽木で開催。栗東教室は、鶏冠山の麓のはらっぱの真ん中にあり、敷地は約3町歩ある。		
9	催し	全国植樹祭 記念耐寒ア ベック登山 大会	1 月～2 月第 1 日曜日に金勝山で行われ、子どもから大人まで 2 人 1 組で挑戦する登山大会。 	金勝	11 13
10	催し	早朝ふれあ いウォーキ ング	金勝学区では、平成元年から毎年、7 月 20 日の海の日に、子どもも大人も参加できる健康づくり・早朝ふれあいウォーキングを実施。コミュニティセンター金勝から県民の森まで歩く。	金勝	11
11	拠点	栗東歴史民 俗博物館	平成 2 年(1990 年)9 月オープン。栗東の歴史や文化を伝える多くの考古・民俗・歴史資料などがテーマ別にわかりやすく展示されている。玄関を入ると正面に狛坂磨崖物の実物大模型が迎えてくれる。展示室は常設展示の第一展示室と企画展示を行う第二展示室からなっている。学校の授業でもよく利用されている。また敷地内に移築された旧中島家住宅を中心として各種の体験事業を開催するとともに、研修室を使用して講座・講演会などを実施している。 	葉山	20
12	拠点	里内勝治郎 と里内文庫	明治 10 年(1877 年)手原で生まれた里内勝治郎は、高等小学校に学び、卒業後も新しい知識を求めて多くの講習会や研究会に参加し、良書を盛んに購入した。医学や農業関係をはじめ、帝国文庫や百科事典など蔵書は 1 万点にもものぼり、明治 43 年(1910 年)には、自宅を改造して里内文庫を開設した。文庫開設後も、巡回文庫や図書館展・講演会など、今日の社会教育活動を精力的に行い、その全てを私財でまかなった。勝治郎の遺志は、里内文庫を郷土資料として整理・保存し、受け継がれている。	葉山	21
13	拠点	栗東芸術会 館さくら	平成 11 年(1999 年)開館。「まちづくり・ひとづくりの拠点」、「芸術文化情報の受発信の拠点」、「交流の拠点」を基本理念に市民に身近なホールづくりを進めている。参加型事業として、住民参加の子どもミュージカルの制作やワークショップ、関連企画、テーマを持った四季のフェスティバル事業などを行っている。また、ユニークな自主事業を行うなど、県内だけでなく県外からの集客も多い。 	大宝	28
14	催し	足利義尚騎 馬行列	栗東市の歴史の中でも、とりわけ華々しかった室町時代。京都を出発し、現在の栗東市に(安養寺・上鉤)に陣を張った室町幕府第九代将軍「足利義尚」のきらびやかな行列風景を再現。平成 21 年(2009 年)より上鉤自治会により東海道ほっこりまつりへの参加協力をいただいている。	治田	2 3
15	催し	栗東文化祭	11 月上旬に芸術文化会館さくらにて開催される芸術イベント。日本画・洋画・書・工芸・写真・彫刻などの部門に多くの作品が展覧される。	共通 大宝	28
16	催し	市制記念式 典	5 年に一度(次回は平成 28 年(2016 年))、11 月 3 日に栗東芸術文化会館さくらにて開催。まちの発展・振興に寄与した人を表彰するとともに、イベント等が開催される。	共通 大宝	28

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
17	催し	栗東市民夏 まつり 野 洲川大花火 大会	野洲川河川敷を会場に、栗東市・野 洲市の連携開催により、夏の夜空を 約 1,000 発の花火が彩る。また、ス テージイベントなど多くの来場者で賑わ う。 	共通 葉山	23
18	催し	市 音 楽 祭 「音楽の森 コンサート」	多くの人々に音楽のよさを味わって もらう目的で、不定期に開催され る栗東市音楽振興会主管の音楽会。	共通 大宝	28
19	催し	栗東農業 まつり	11 月下旬。 	共通 葉山	20
追加	拠点	マスコットキ ャラクター 「くりちゃん」	平成 25 年(2013 年)に新たに栗東市 のマスコットキャラクターとなった「くり ちゃん」。 栗東市のイメージアップのため活躍 するさまは、まさに栗東市独自の地 域資源であるといえる。 身長:150 センチメートル 体重:栗 2000 個分(約 60 キログラム) 性別:男の子 生年月日: 1991 年 12 月 25 日(クリスマス) 	共通	
追加	拠点	栗東駅	栗東市の玄関口。	大宝	28
追加	拠点	手原駅	栗東市の玄関口。	葉山	21
追加	拠点	かたつむ邸	「かたつむ邸」は、平成 25 年(2013 年)4 月より、龍谷大学の学生が東海 道沿線で借用している民家の名称 で、地域内での活動拠点、及び地域 住民との交流の場として活用して おり、定期的に一般開放している。ま た、「かたつむ邸」は「語りから未来を 紡ぐ」ところからきており、そこを 拠点に文化や歴史、景観など様々な 内容を地域住民と語り合うことで、 学生は見識を深め、地域住民は自 分たちのまちへの愛着の醸成と、 住民同士のコミュニティ強化を 図られている。 	治田	3
追加	催し	Harves-Ta in HASHIRI	Harves-Ta in HASHIRI(走井地域の 収穫祭)のイベントを中心に、清流の 里、走井の良さを広く地域内外の人 たちに PR し、地域の魅力を発信。ま た、農業・農村の多面的機能の発揮 を図るために、若者が農林業にチャ レンジする集落づくりを促進させ、さ らに害獣から農地を保全し、土地改 良施設の保全や環境整備など集落 外からの力の活用などによる共同活 動を実施している。 	金勝	13
追加	催し	竹村定治 (たけむら・ さだじ)コレ クション	平成 19 年(2007 年)に、栗東歴史民俗博物館が栗東市伊勢落在住 の竹村定治さんから寄贈を受けた鉄道コレクション。竹村さんが生 涯にわたって収集されたもので、鉄道模型、記念切符やメダル、コイン などの鉄道記念グッズ、書籍や雑誌等の資料類など、総点数	葉山	20

番号	サブ テーマ	名 称	情 報	地域	地区
			3,000点余りを数える。コレクションの調査・整理は、栗東歴史民俗博物館と栗東歴史民俗博物館市民学芸員の会が協力して行ない、その成果の一部を平成 22(2010)年度に「竹村定治コレクション展～鉄道模型の世界～」として公開した。 平成 27(2014)年度に、2 回目となる竹村定治コレクション展が開催された。		
追加	拠点	栗東市立自然体験学習センター	栗東の豊かな自然の中で集団活動と宿泊研修を通じて豊かな心を育み、明るくたくましい青少年の育成と生涯学習の振興を図るため、自然体験学習センターとして活用する。 	金勝	16
追加	拠点	田楽茶屋ほっこり庵	岡地区は江戸時代、東海道を行き交う旅人の休憩所「立場」のひとつ目川立場が置かれ、当時豆腐田楽と大根の葉の漬物を刻んでご飯に混ぜた菜飯、地酒「菊の水」のセットが旅人たちに大好評だったという。ほっこり庵は田楽茶屋を模して平成21年(2009年)にオープン。目川田楽と菜飯は代々伝わる当時のレシピをもとに味付けを現代風アレンジ。口コミで広がり全国から目川田楽を食べに訪れるファンもいる。 	治田	2
追加	催し	東海道(東海道ほっこりまつり)	東海道は、江戸時代以前より人馬と情報の往来幹線として整備された歴史文化に富んだ街道であり、その中で目川、岡地域は、宿場をつなぐ休憩所「目川立場」として栄えていた。現代においても、寺院、民家、垣、塀、石碑など、往時の街道筋の雰囲気等が随所に残っている。地域においては、住民で構成された「東海道ほっこりまつり実行委員会」が中心となり、平成 19(2007)年度から、東海道の一部区間を 1 日車両通行止めにして開催される「東海道ほっこりまつり」など、景観まちづくり活動を展開されている。 		
追加	催し	びわこ栗東駅伝クロカン in 野洲川		葉山	23
追加	催し	栗東クロスカントリー大会		葉山	23
追加	催し	りっとうヤングフェスタ		大宝	28
追加	催し	桜並木の通り抜け		金勝	11
追加	催し	トレセン夏まつり		金勝	11

栗東市地域資源活用ビジョン

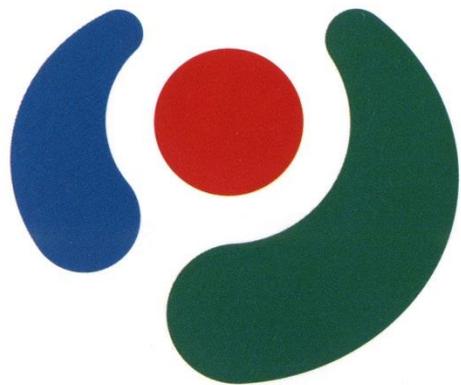
発行：栗東市政策推進部広報課

〒520-3088 滋賀県栗東市安養寺一丁目 13-33

電話：077-551-0641, FAX:077-554-1123

<http://www.city.ritto.shiga.jp/>

平成 27 年 10 月発行



栗東市

RITTO CITY